



平成21年3月期 決算短信

平成21年5月18日

上場取引所 東大

上場会社名 日本ゼオン株式会社

コード番号 4205 URL <http://www.zeon.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 古河直純

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役執行役員

(氏名) 南忠幸

定時株主総会開催予定日 平成21年6月26日

配当支払開始予定日

TEL 03-3216-1412

平成21年6月29日

有価証券報告書提出予定日 平成21年6月26日

(百万円未満四捨五入)

1. 21年3月期の連結業績(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | |
|--------|---------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 21年3月期 | 268,857 | △11.2 | 2,936 | △88.4 | 3,848 | △81.4 | 2,478 | △72.7 |
| 20年3月期 | 302,925 | 7.6 | 25,268 | △16.3 | 20,638 | △30.7 | 9,092 | △46.8 |

| | 1株当たり当期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 | 自己資本当期純利 益率 | 総資産経常利益率 | 売上高営業利益率 |
|--------|------------|-----------------------|----------------|----------|----------|
| | 円 銭 | 円 銭 | % | % | % |
| 21年3月期 | 10.50 | 10.49 | 2.4 | 1.2 | 1.1 |
| 20年3月期 | 38.24 | 38.22 | 8.3 | 6.3 | 8.3 |

(参考) 持分法投資損益 21年3月期 31百万円 20年3月期 32百万円

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|--------|---------|---------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 21年3月期 | 292,027 | 99,261 | 32.8 | 405.89 |
| 20年3月期 | 335,730 | 110,880 | 31.9 | 453.54 |

(参考) 自己資本 21年3月期 95,816百万円 20年3月期 107,063百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

| | 営業活動によるキャッシュ・フロー | 投資活動によるキャッシュ・フロー | 財務活動によるキャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物期末残高 |
|--------|------------------|------------------|------------------|---------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 21年3月期 | 10,373 | △35,155 | 24,521 | 5,008 |
| 20年3月期 | 8,197 | △34,015 | 25,220 | 6,126 |

2. 配当の状況

| (基準日) | 1株当たり配当金 | | | | | 配当金総額 (年間) | 配当性向 (連結) | 純資産配当 率(連結) |
|----------------|----------|--------|--------|------|-------|---------------|--------------|----------------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 年間 | | | |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 百万円 | % | % |
| 20年3月期 | — | 6.00 | — | 6.00 | 12.00 | 2,845 | 31.4 | 2.6 |
| 21年3月期 | — | 6.00 | — | 3.00 | 9.00 | 2,125 | 85.7 | 0.7 |
| 22年3月期 (予想) | — | 0.00 | — | 5.00 | 5.00 | | 118.0 | |

3. 22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期 純利益 |
|-----------------|---------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期 連結累計期間 | 100,000 | △36.1 | △1,500 | △115.0 | △2,700 | △125.7 | △1,700 | △135.5 | △7.20 |
| 通期 | 213,000 | △20.8 | 4,000 | 36.2 | 2,000 | △48.0 | 1,000 | △59.6 | 4.24 |

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名 株式会社オプテス)

(注) 詳細は、8ページ「企業集団の状況」をご覧ください。

(2) 連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、19ページ「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」及び26ページ「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期 242,075,556株 20年3月期 242,075,556株

② 期末自己株式数 21年3月期 6,014,418株 20年3月期 6,014,022株

(注) 1株当たり当期純利益(連結)の算定上の基礎となる株式数については、48ページ「1株当たり情報」をご覧ください。

(参考) 個別業績の概要

1. 21年3月期の個別業績(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | |
|--------|---------|------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 21年3月期 | 170,457 | △8.7 | 4,127 | △75.7 | 7,011 | △59.9 | 2,942 | △71.8 |
| 20年3月期 | 186,739 | 9.8 | 16,964 | △8.1 | 17,472 | △16.2 | 10,445 | △20.3 |

| | 1株当たり当期純利益 | | 潜在株式調整後1株当たり当期純利益 | |
|--------|------------|--|-------------------|--|
| | 円 銭 | | 円 銭 | |
| 21年3月期 | 12.46 | | 12.45 | |
| 20年3月期 | 43.93 | | 43.91 | |

(2) 個別財政状態

| | 総資産 | | 純資産 | | 自己資本比率 | | 1株当たり純資産 | |
|--------|---------|--|--------|--|--------|--------|----------|--|
| | 百万円 | | 百万円 | | % | 円 銭 | | |
| 21年3月期 | 248,862 | | 87,389 | | 35.0 | 369.35 | | |
| 20年3月期 | 269,324 | | 92,036 | | 34.1 | 389.24 | | |

(参考) 自己資本 21年3月期 87,188百万円 20年3月期 91,884百万円

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、3ページ「1. 経営成績(1) 経営成績に関する分析」をご覧ください。

1. 経営成績

(1) 経営成績に関する分析

①当期の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機が原油価格、株式市場の急落、円高などをもたらし、年度後半からは企業収益の大幅な減少など実体経済に深刻な影響を及ぼし、景気は急速に悪化しました。

石油化学業界におきましては、原油、ナフサ等の原料価格は年度前半のピーク時に比べて年度末においては半分以下に下落しましたが、世界的な需要の減少による販売数量の減少で、設備、在庫の余剰感が広がりました。

当社グループは、このような環境のもとで、緊急の大幅な経費削減と工場の一時休止を含めた減産を実施するとともに、引き続き「ZΣ運動」によるコスト削減・低減に努めてまいりました。

部門別では、エラストマー素材事業部門は、需要に応じた生産調整と採算性の改善および維持にも注力いたしました。また高機能材料事業部門は、付加価値の高い新製品の開発と事業拡大に取り組んでまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、2,688億57百万円となり、前連結会計年度（以下「前年度」といいます。）に比べて11.2%の減収、営業利益は、販売数量の減少に伴い生産設備の稼働率を落としたことなどにより原価率が上昇したため、前年度に比べて88.4%減少し29億36百万円、経常利益は前年度に比べて81.4%減少し38億48百万円、当期純利益は前年度に比べて72.7%減少し24億78百万円にとどまりました。

(連結)

| 区 分 | 平成21年3月期 | | 平成20年3月期 | | 増減 | |
|------------|----------|--------|----------|--------|---------|-------|
| | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 率(%) |
| 売上高 | 268,857 | 100.0 | 302,925 | 100.0 | △34,067 | △11.2 |
| エラストマー素材事業 | 179,957 | 66.9 | 195,711 | 64.6 | △15,754 | △8.1 |
| 高機能材料事業 | 37,569 | 14.0 | 47,153 | 15.6 | △9,584 | △20.3 |
| その他の事業 | 55,151 | 20.5 | 62,345 | 20.6 | △7,193 | △11.5 |
| 消去又は全社 | △3,820 | △1.4 | △2,285 | △0.8 | △1,536 | 67.2 |

| 区 分 | 平成21年3月期 | | 平成20年3月期 | | 増減 | |
|-------|----------|---------|----------|---------|---------|-------|
| | 金額(百万円) | 売上高比(%) | 金額(百万円) | 売上高比(%) | 金額(百万円) | 率(%) |
| 営業利益 | 2,936 | 1.1 | 25,268 | 8.3 | △22,332 | △88.4 |
| 経常利益 | 3,848 | 1.4 | 20,638 | 6.8 | △16,790 | △81.4 |
| 当期純利益 | 2,478 | 0.9 | 9,092 | 3.0 | △6,614 | △72.7 |

(単独)

| 区 分 | 平成21年3月期 | | 平成20年3月期 | | 増減 | |
|------------|----------|--------|----------|--------|---------|-------|
| | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 率(%) |
| 売上高 | 170,457 | 100.0 | 186,739 | 100.0 | △16,282 | △8.7 |
| エラストマー素材事業 | 136,386 | 80.0 | 146,542 | 78.5 | △10,156 | △6.9 |
| 高機能材料事業 | 33,448 | 19.6 | 37,725 | 20.2 | △4,277 | △11.3 |
| その他の事業 | 624 | 0.4 | 2,472 | 1.3 | △1,848 | △74.8 |

| 区 分 | 平成21年3月期 | | 平成20年3月期 | | 増減 | |
|-------|----------|---------|----------|---------|---------|-------|
| | 金額(百万円) | 売上高比(%) | 金額(百万円) | 売上高比(%) | 金額(百万円) | 率(%) |
| 営業利益 | 4,127 | 2.4 | 16,964 | 9.1 | △12,836 | △75.7 |
| 経常利益 | 7,011 | 4.1 | 17,472 | 9.4 | △10,461 | △59.9 |
| 当期純利益 | 2,942 | 1.7 | 10,445 | 5.6 | △7,503 | △71.8 |

②部門別の概況

(エラストマー素材事業部門)

合成ゴムの国内販売は、年度前半においては高騰を続ける原料価格に対応し販売価格の改定に取り組みましたが、後半は一転して市場環境が大きく変化したため、急速な景気後退に伴う需要先の生産調整に応じて減産を行いました。この結果、販売数量は前年度に比べて減少しましたが、売上高は前年度を若干上回りました。輸出につきましては、年度後半の世界景気の減速と円高の影響を大きく受け、販売数量、売上高ともに前年度を下回りました。米国子会社は経済の停滞の影響により販売数量は前年度を下回りましたが、売上高は価格改定により外貨ベースでは前年度に比べて増収となりました。英国子会社についても経済悪化の影響を受け販売数量は前年度に比べて減少しましたが、ポンド安により外貨ベースの売上高は前年度を上回りました。この結果、合成ゴム全体では、売上高、営業利益ともに前年度より減少しました。

合成ラテックスの国内販売は、紙用途向け、樹脂改質用途向けの販売が減少し、販売数量、売上高とも前年度を下回りました。一方、輸出販売につきましては、手袋用途向けの伸びにより、販売数量、売上高とも前年度より増加しました。この結果、合成ラテックス全体では、売上高、営業利益ともに前年度より増加しました。

化成品は、世界的な景気後退およびそれに伴う在庫調整により、販売数量は国内、輸出とも前年度を大きく下回りました。また、年度前半の原料価格の高騰に対応し、販売価格の改定を行いました。販売数量の減少を補うには至らず、売上高も前年度より減少しました。タイの石油樹脂子会社は、タイ本国での政情不安ならびに世界的な需要の後退により販売数量、売上高ともに前年度を下回りました。この結果、化成品全体では、売上高、営業利益ともに前年度より減少しました。

以上の結果、エラストマー素材事業部門全体の売上高は1,799億57百万円となり、前年度に比べて8.1%の減収、営業利益は76億42百万円となり、前年度に比べて53.9%の減益となりました。

(高機能材料事業部門)

高機能樹脂(シクロオレフィンポリマー)関連では、光学レンズ市場を中心に年度後半から始まった急激な景気後退の影響が大きく、販売数量、売上高、営業利益ともに前年度を下回りました。

高機能部材関連では、光学フィルムは景気後退による影響を受け、販売数量、売上高ともに前年度を下回り、高機能部材全体でも、売上高は前年度を下回る結果となりました。情報材料関連では、電池材料、トナーが売上高を伸ばしましたが、エッチング用ガスおよびレジストの売上高が減少しました。

化学品関連では、合成香料は円高および需要先の在庫調整の影響を受け、販売数量、売上高ともに前年度を下回りました。特殊化学品は、販売数量は前年度より増加しましたが、売上高は前年度を下回りました。この結果、化学品全体では売上高、営業利益ともに前年度より減少しました。

以上の結果、高機能材料事業部門全体の売上高は375億69百万円となり、前年度に比べて20.3%の減収、営業利益は47億64百万円の損失となりました。

(その他の事業部門)

その他の事業においては、景気後退の影響を受けて商事部門が大きく売上高を落とし、また建設・住宅部材の販売も低迷を続けました。

この結果、その他の事業部門全体の売上高は551億51百万円となり、前年度に比べて11.5%の減収、営業利益は1億77百万円となり、前年度に比べて85.4%の減益となりました。

③次期の見通し

今後の見通しにつきましては、米国に端を発した景気減速が世界的に広がりを見せ、世界経済の回復にはかなり時間を要すると見込まれます。国内経済も、当社の主要な顧客である自動車業界、液晶部材および半導体業界をはじめ、一般的に需要が減退しており、急激な回復は困難と思われまます。

このような環境のもとで、当社グループは中期経営3ヵ年計画『I Z-60』を見直し、徹底したコスト削減とともに、低稼働でも収益を確保できる事業体質の実現に取り組んでまいります。

次期の連結業績につきましては、為替レートを90円/\$、ナフサ価格を平均27千円/KLと想定して、売上高2,130億円(前期比20.8%減)、営業利益40億円(前期比36.2%増)、経常利益20億円(前期比48.0%減)、当期純利益10億円(前期比59.6%減)と見込んでおります。

(連結)

| 区 分 | 平成22年3月期 | | 平成21年3月期 | | 増減 | |
|------------|----------|--------|----------|--------|---------|-------|
| | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 率(%) |
| 売上高 | 213,000 | 100.0 | 268,857 | 100.0 | △55,857 | △20.8 |
| エラストマー素材事業 | 130,000 | 61.0 | 179,957 | 66.9 | △49,957 | △27.8 |
| 高機能材料事業 | 43,000 | 20.2 | 37,569 | 14.0 | 5,431 | 14.5 |
| その他の事業 | 44,000 | 20.7 | 55,151 | 20.5 | △11,151 | △20.2 |
| 消去又は全社 | △4,000 | △1.9 | △3,820 | △1.4 | △180 | 4.7 |

| 区 分 | 平成22年3月期 | | 平成21年3月期 | | 増減 | |
|-------|----------|---------|----------|---------|---------|-------|
| | 金額(百万円) | 売上高比(%) | 金額(百万円) | 売上高比(%) | 金額(百万円) | 率(%) |
| 営業利益 | 4,000 | 1.9 | 2,936 | 1.1 | 1,064 | 36.2 |
| 経常利益 | 2,000 | 0.9 | 3,848 | 1.4 | △1,848 | △48.0 |
| 当期純利益 | 1,000 | 0.5 | 2,478 | 0.9 | △1,478 | △59.6 |

(単独)

| 区 分 | 平成22年3月期 | | 平成21年3月期 | | 増減 | |
|------------|----------|--------|----------|--------|---------|-------|
| | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 構成比(%) | 金額(百万円) | 率(%) |
| 売上高 | 142,400 | 100.0 | 170,457 | 100.0 | △28,057 | △16.5 |
| エラストマー素材事業 | 101,000 | 70.9 | 136,386 | 80.0 | △35,386 | △25.9 |
| 高機能材料事業 | 41,000 | 28.8 | 33,448 | 19.6 | 7,552 | 22.6 |
| その他の事業 | 400 | 0.3 | 623 | 0.4 | △223 | △35.8 |

| 区 分 | 平成22年3月期 | | 平成21年3月期 | | 増減 | |
|-------|----------|---------|----------|---------|---------|-------|
| | 金額(百万円) | 売上高比(%) | 金額(百万円) | 売上高比(%) | 金額(百万円) | 率(%) |
| 営業利益 | 2,500 | 1.8 | 4,127 | 2.4 | △1,627 | △39.4 |
| 経常利益 | 1,500 | 1.1 | 7,011 | 4.1 | △5,511 | △78.6 |
| 当期純利益 | 1,000 | 0.7 | 2,942 | 1.7 | △1,942 | △66.0 |

(2) 財政状態に関する分析

単位：百万円

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 | 増減 |
|----------------------------|---------|---------|--------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 8,197 | 10,373 | 2,176 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △34,015 | △35,155 | △1,140 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 25,220 | 24,521 | △699 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △107 | △1,142 | △1,035 |
| 現金及び現金同等物の増加(△減少)額 | △705 | △1,403 | △698 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 6,483 | 6,126 | △357 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | 348 | 266 | △82 |
| 非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額 | — | 20 | 20 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 6,126 | 5,008 | △1,118 |

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ11億18百万円（前期比18.2%減）減少し、50億8百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における営業活動による資金の増加は103億73百万円となり、前連結会計年度に比べ21億76百万円の増加（前期比26.5%増）となりました。前連結会計年度との差の主な要因は、仕入債務と税金等調整前当期純利益が前連結会計年度に比べ減少したものの、売上債権が前連結会計年度に比べ減少したこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における投資活動による資金の減少は351億55百万円となり、前連結会計年度に比べ11億40百万円の資金支出の増加（前期比3.4%増）となりました。前連結会計年度との差の主な要因は、投資有価証券の取得による支出が前連結会計年度に比べ減少するとともに、投資有価証券の売却及び償還による収入が前連結会計年度に比べ増加したものの、有形固定資産の取得による支出が前連結会計年度に比べ増加したためであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における財務活動による資金の増加は245億21百万円となり、前連結会計年度に比べ6億99百万円の資金の減少となりました。前連結会計期間との差の主な要因は、自己株式の取得による支出が前連結会計年度に比べ減少したものの、有利子負債の純増加額が前連結会計年度に比べ減少したためであります。

当社グループのキャッシュ・フロー指標のトレンドは下記のとおりであります。

| | 平成17年3月期 | 平成18年3月期 | 平成19年3月期 | 平成20年3月期 | 平成21年3月期 |
|-------------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 自己資本比率 (%) | 32.3 | 35.4 | 35.4 | 31.9 | 32.8 |
| 時価ベースの自己資本比率 (%) | 81.3 | 132.5 | 91.8 | 31.4 | 21.4 |
| キャッシュ・フロー対有利子負債比率 | 2.6 | 2.1 | 2.9 | 11.9 | 11.9 |
| インタレスト・カバレッジ・レシオ | 29.5 | 39.3 | 25.8 | 5.5 | 6.2 |

(注)自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

※各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。

※株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。

※営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている社債、借入金及びコマーシャルペーパーを対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、剰余金の配当につきましては、株主の皆様へ安定的、継続的に配当していくことを基本としております。

このような方針のもとに、平成21年3月期の期末配当金につきましては、3円とさせていただきたいと存じます。この結果、年間配当金は中間配当金を含めると1株につき9円となります。

なお、次期の配当につきましては、中間配当は無配とさせていただきますが、期末配当金は1株当たり5円とさせていただきます予定です。

2. 企業集団の状況

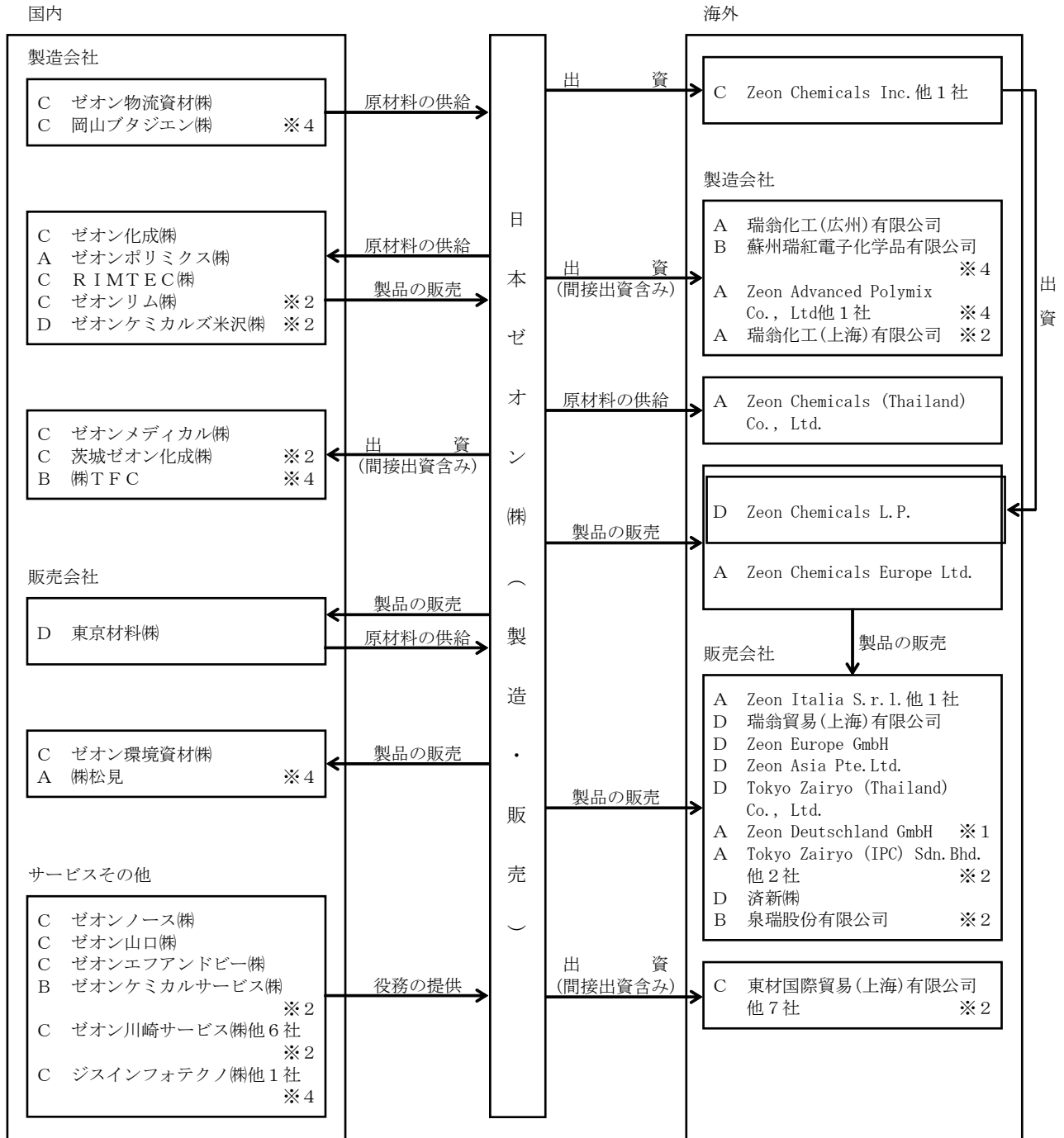
当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社48社及び関連会社8社で構成されており、主な事業内容と事業を構成している当社及び関係会社の当該事業における位置付けは次のとおりであります。

| 事業区分 | 主要製品等 | 主要な会社 | |
|----------------|---|-------|--|
| エラストマー 素材事業 | 合成ゴム，合成ラテックス，化成品（C5石油樹脂，熱可塑性エラストマー等） | 国内 | 当社、東京材料（株）、ゼオンポリミクス(株)、(株)松見 (計4社) |
| | | 海外 | Zeon Chemicals L.P.、Zeon Chemicals Europe Ltd.、Zeon Europe GmbH、Zeon Italia S.r.l.、Zeon Asia Pte. Ltd.、Zeon Chemicals (Thailand) Co., Ltd.、Zeon Advanced Polymix Co.Ltd、瑞翁貿易(上海)有限公司、瑞翁化工(上海)有限公司、瑞翁化工(広州)有限公司、Tokyo Zairyo (Thailand) Co.,Ltd.、Tokyo Zairyo (IPC) Sdn.Bhd. その他5社 (計17社) |
| 高機能材料事業 | 化学品（合成香料，有機合成薬品等），情報材料（電子材料，トナー関連製品等），高機能樹脂（シクロオレフィンポリマー樹脂，シクロオレフィンポリマー成型品） | 国内 | 当社、東京材料（株）、ゼオンケミカルズ米沢(株)、ゼオンケミカルサービス(株)、(株)TFC (計5社) |
| | | 海外 | Zeon Chemicals L.P.、Zeon Europe GmbH、Zeon Asia Pte.Ltd.、済新(株)、蘇州瑞紅電子化学品有限公司、泉瑞股份有限公司、瑞翁貿易(上海)有限公司 (計7社) |
| その他の事業 | RIM配合液，RIM成形品，医療器材，ブタジエン抽出技術等，塩ビコンパウンド，包装物流資材，住宅資材，その他 | 国内 | 当社、ゼオンノース(株)、ゼオン環境資材(株)、ゼオン山口(株)、RIMTEC(株)、ゼオンリム(株)、ゼオンメディカル(株)、東京材料(株)、ゼオン化成(株)、ゼオン物流資材(株)、岡山ブタジエン(株)、茨城ゼオン化成(株)、ジスイنفォテクノ(株)、ゼオンエフアンドビー(株)、ゼオンケミカルズ米沢(株)、ゼオン川崎サービス(株) 他7社 (計23社) |
| | | 海外 | Zeon Chemicals Inc.、東材国際貿易(上海)有限公司、瑞翁貿易(上海)有限公司、済新(株)、Tokyo Zairyo (Thailand) Co.,Ltd. その他8社 (計13社) |

(注1) 複数事業を営んでいる場合には、それぞれの事業に含めております。

(注2) 平成21年1月に、(株)オプテスは当社に吸収合併いたしました。

以上述べた事項を事業系統図に示すと次のとおりであります。



(注) 会社についての区分

事業種類……A：エラストマー素材事業 B：高機能材料事業 C：その他の事業 D：複数の事業を営む会社

出資関連……無印：連結子会社 ※1：非連結子会社で持分法適用会社 ※2：非連結子会社で持分法非適用会社 ※3：関連会社で持分法適用会社 ※4：関連会社で持分法非適用会社

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「大地の永遠と人類の繁栄に貢献するゼオン」を企業理念としております。この理念を具体化するものが、「スピード」、「対話」、「社会貢献」であり、この3本柱のもと「世界に誇り得る独創的技術により、地球環境と人類の繁栄に貢献するゼオン」、「社会から信頼され、社員も誇りに思えるゼオン」を目指しております。

また、株主・顧客・地域社会に信頼される企業をつくるためには、役員ならびに従業員一人ひとりが常に社会の一員であることを認識し、法令・企業倫理を守ってフェアに行動することが必須であると考えております。当社グループでは、行動規範として「ゼオン七条」を定め、国内外の法を遵守することはもとより、社会規範を尊重し、良識ある企業活動を行うべく努めて参りました。さらにこれに依拠して、役員ならびに従業員が自らを律し、遵守すべきガイドラインを定め、「ゼオン七条」を日常の事業活動の中で具体化するよう努めております。

ゼオン七条

- 第一条 ゼオンは企業倫理を守り社会の公器として行動します。
- 第二条 ゼオンは環境と安全を重視します。
- 第三条 ゼオンは独創的技術で社会に貢献します。
- 第四条 ゼオンは顧客が満足する製品を届けます。
- 第五条 ゼオンは個人を活かし組織を重視します。
- 第六条 ゼオンは全員参加で課題に挑戦し、成果は公平に配分します。
- 第七条 ゼオンは意思決定や仕事の納期に速力を重視します。

(2) 目標とする経営指標、中長期的な会社の経営戦略および会社の対処すべき課題

当社グループは企業理念である「大地の永遠と人類の繁栄に貢献するゼオン」を実現するために、平成20年度から平成22年度までの中期経営3ヵ年計画『IZ-60』（イノベーション・ゼオン 60）を策定し、課題に取り組んでまいりました。

しかしながら、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融危機と、それをきっかけとした世界的な景気の激変、および急激な為替変動等によって、当社グループを取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

当社グループはこの環境の激変に迅速に対応するために『IZ-60』の見直しを進め、必要な諸課題に取り組んでまいります。

4. 連結財務諸表
 (1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (平成21年3月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 6,509 | 5,263 |
| 受取手形及び売掛金 | ※5 76,816 | 46,135 |
| たな卸資産 | 56,021 | — |
| 商品及び製品 | — | 43,828 |
| 仕掛品 | — | 3,288 |
| 原材料及び貯蔵品 | — | 8,508 |
| 未収入金 | 28,876 | ※6 15,947 |
| 繰延税金資産 | 3,101 | 3,446 |
| その他 | 1,940 | 4,607 |
| 貸倒引当金 | △88 | △77 |
| 流動資産合計 | 173,174 | 130,945 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 32,571 | 31,831 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 50,424 | 40,320 |
| 土地 | 13,970 | 13,913 |
| 建設仮勘定 | 15,557 | 29,502 |
| その他(純額) | 3,741 | 3,226 |
| 有形固定資産合計 | ※1,3,8 116,263 | ※1,3,8 118,792 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 2,311 | 1,416 |
| その他 | 3,587 | 3,458 |
| 無形固定資産合計 | 5,898 | 4,874 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | ※2,3 35,881 | ※2,3 25,849 |
| 繰延税金資産 | 469 | 5,714 |
| その他 | ※2 4,506 | ※2 6,387 |
| 貸倒引当金 | △462 | △533 |
| 投資その他の資産合計 | 40,393 | 37,416 |
| 固定資産合計 | 162,554 | 161,082 |
| 繰延資産 | 2 | 0 |
| 資産合計 | 335,730 | 292,027 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (平成21年3月31日) |
|--------------|-------------------------|-------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | ※3 79,712 | ※3 35,968 |
| 短期借入金 | 25,351 | 39,199 |
| コマーシャル・ペーパー | 19,984 | 29,988 |
| 未払法人税等 | 3,021 | 426 |
| 賞与引当金 | 1,769 | 1,257 |
| その他の引当金 | 1,085 | 1,200 |
| その他 | 25,621 | 15,577 |
| 流動負債合計 | 156,542 | 123,614 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 20,000 | 20,000 |
| 長期借入金 | ※3 32,177 | 34,160 |
| 繰延税金負債 | 1,383 | 358 |
| 退職給付引当金 | 11,675 | 11,859 |
| 環境対策引当金 | 517 | 517 |
| その他の引当金 | 622 | 635 |
| 負ののれん | 175 | 87 |
| その他 | 1,759 | 1,536 |
| 固定負債合計 | 68,309 | 69,151 |
| 負債合計 | 224,850 | 192,766 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 24,211 | 24,211 |
| 資本剰余金 | 18,378 | 18,374 |
| 利益剰余金 | 67,000 | 66,624 |
| 自己株式 | △5,433 | △5,430 |
| 株主資本合計 | 104,156 | 103,781 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 5,056 | △8 |
| 繰延ヘッジ損益 | 2 | △2 |
| 為替換算調整勘定 | △556 | △6,089 |
| 年金負債調整額 | ※9 △1,595 | ※9 △1,867 |
| 評価・換算差額等合計 | 2,907 | △7,965 |
| 新株予約権 | 151 | 201 |
| 少数株主持分 | 3,666 | 3,244 |
| 純資産合計 | 110,880 | 99,261 |
| 負債純資産合計 | 335,730 | 292,027 |

(2) 連結損益計算書

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 | | 当連結会計年度 | |
|--------------|-------------------------------|---------|-------------------------------|---------|
| | (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | | (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | |
| 売上高 | | 302,925 | | 268,857 |
| 売上原価 | | 228,829 | ※1 | 220,579 |
| 売上総利益 | | 74,095 | | 48,279 |
| 販売費及び一般管理費 | ※2,4 | 48,827 | ※2,4 | 45,343 |
| 営業利益 | | 25,268 | | 2,936 |
| 営業外収益 | | | | |
| 受取利息 | | 270 | | 199 |
| 受取配当金 | | 1,133 | | 895 |
| 負ののれん償却額 | | 118 | | 131 |
| 持分法による投資利益 | | 32 | | 31 |
| 受取賃貸料 | | 72 | | 77 |
| 分譲益 | | 217 | | 280 |
| 補助金収入 | | 534 | | 2,540 |
| 雑収入 | | 614 | | 481 |
| 営業外収益合計 | | 2,990 | | 4,634 |
| 営業外費用 | | | | |
| 支払利息 | | 1,468 | | 1,640 |
| 為替差損 | | 1,849 | | 1,725 |
| たな卸資産処分損 | | 3,797 | | — |
| 雑損失 | | 506 | | 356 |
| 営業外費用合計 | | 7,620 | | 3,722 |
| 経常利益 | | 20,638 | | 3,848 |
| 特別利益 | | | | |
| 固定資産売却益 | ※3 | 184 | ※3 | 75 |
| その他 | | 34 | | 16 |
| 特別利益合計 | | 218 | | 91 |
| 特別損失 | | | | |
| 固定資産処分損 | | 1,160 | | 770 |
| 訴訟関連損失 | ※5 | 1,123 | | — |
| 減損損失 | | — | ※6 | 1,546 |
| 投資有価証券評価損 | | — | | 288 |
| その他 | | 400 | | 88 |
| 特別損失合計 | | 2,683 | | 2,691 |
| 税金等調整前当期純利益 | | 18,173 | | 1,249 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 8,023 | | 1,380 |
| 過年度法人税等 | | — | | 122 |
| 法人税等調整額 | | 602 | | △2,847 |
| 法人税等合計 | | 8,625 | | △1,345 |
| 少数株主利益 | | 457 | | 116 |
| 当期純利益 | | 9,092 | | 2,478 |

(3) 連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 | 当連結会計年度 |
|--------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | |
| 前期末残高 | 24,211 | 24,211 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | — | — |
| 当期末残高 | 24,211 | 24,211 |
| 資本剰余金 | | |
| 前期末残高 | 18,372 | 18,378 |
| 当期変動額 | | |
| 自己株式の処分 | 6 | △3 |
| 当期変動額合計 | 6 | △3 |
| 当期末残高 | 18,378 | 18,374 |
| 利益剰余金 | | |
| 前期末残高 | 60,542 | 67,000 |
| 在外子会社の会計処理の変更に伴う増減 | — | △121 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △2,857 | △2,833 |
| 当期純利益 | 9,092 | 2,478 |
| 連結範囲の変更に伴う増加 | 239 | 100 |
| 連結範囲の変更に伴う減少 | △15 | — |
| 当期変動額合計 | 6,459 | △255 |
| 当期末残高 | 67,000 | 66,624 |
| 自己株式 | | |
| 前期末残高 | △4,445 | △5,433 |
| 当期変動額 | | |
| 自己株式の処分 | 42 | 6 |
| 自己株式の取得 | △1,031 | △3 |
| 当期変動額合計 | △989 | 4 |
| 当期末残高 | △5,433 | △5,430 |
| 株主資本合計 | | |
| 前期末残高 | 98,681 | 104,156 |
| 在外子会社の会計処理の変更に伴う増減 | — | △121 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △2,857 | △2,833 |
| 当期純利益 | 9,092 | 2,478 |
| 自己株式の処分 | 48 | 3 |
| 自己株式の取得 | △1,031 | △3 |
| 連結範囲の変更に伴う増加 | 239 | 100 |
| 連結範囲の変更に伴う減少 | △15 | — |
| 当期変動額合計 | 5,476 | △254 |
| 当期末残高 | 104,156 | 103,781 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|---------------------|--|--|
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 前期末残高 | 13,872 | 5,056 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | △8,816 | △5,064 |
| 当期変動額合計 | △8,816 | △5,064 |
| 当期末残高 | 5,056 | △8 |
| 繰延ヘッジ損益 | | |
| 前期末残高 | 12 | 2 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | △10 | △3 |
| 当期変動額合計 | △10 | △3 |
| 当期末残高 | 2 | △2 |
| 為替換算調整勘定 | | |
| 前期末残高 | △101 | △556 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | △455 | △5,533 |
| 当期変動額合計 | △455 | △5,533 |
| 当期末残高 | △556 | △6,089 |
| 年金追加最小負債 | | |
| 前期末残高 | △789 | — |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 789 | — |
| 当期変動額合計 | 789 | — |
| 当期末残高 | — | — |
| 年金負債調整額 | | |
| 前期末残高 | — | △1,595 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | △1,595 | △271 |
| 当期変動額合計 | △1,595 | △271 |
| 当期末残高 | △1,595 | △1,867 |
| 評価・換算差額等合計 | | |
| 前期末残高 | 12,995 | 2,907 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | △10,088 | △10,871 |
| 当期変動額合計 | △10,088 | △10,871 |
| 当期末残高 | 2,907 | △7,965 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|---------------------|--|--|
| 新株予約権 | | |
| 前期末残高 | 101 | 151 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 50 | 50 |
| 当期変動額合計 | 50 | 50 |
| 当期末残高 | 151 | 201 |
| 少数株主持分 | | |
| 前期末残高 | 3,403 | 3,666 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 262 | △421 |
| 当期変動額合計 | 262 | △421 |
| 当期末残高 | 3,666 | 3,244 |
| 純資産合計 | | |
| 前期末残高 | 115,180 | 110,880 |
| 在外子会社の会計処理の変更に伴う増減 | — | △121 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △2,857 | △2,833 |
| 当期純利益 | 9,092 | 2,478 |
| 自己株式の処分 | 48 | 3 |
| 自己株式の取得 | △1,031 | △3 |
| 連結範囲の変更に伴う増加 | 239 | 100 |
| 連結範囲の変更に伴う減少 | △15 | — |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | △9,776 | △11,243 |
| 当期変動額合計 | △4,301 | △11,497 |
| 当期末残高 | 110,880 | 99,261 |

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|--------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前当期純利益 | 18,173 | 1,249 |
| 減価償却費 | 19,497 | 22,597 |
| 退職給付引当金の増減額 (△は減少) | △1,035 | — |
| 修繕引当金の増減額 (△は減少) | 1,104 | — |
| 受取利息及び受取配当金 | △1,403 | △1,094 |
| 支払利息 | 1,468 | 1,640 |
| 補助金収入 | — | △2,540 |
| 固定資産処分損益 (△は益) | 1,160 | 770 |
| 訴訟関連損失 | 1,123 | — |
| 減損損失 | — | 1,546 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | △15,573 | 26,694 |
| たな卸資産の増減額 (△は増加) | △4,091 | △2,933 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | △2,541 | △39,976 |
| その他 | 9 | 10,426 |
| 小計 | 17,891 | 18,380 |
| 利息及び配当金の受取額 | 1,607 | 1,147 |
| 利息の支払額 | △1,481 | △1,660 |
| 補助金の受取額 | — | 743 |
| 訴訟関連損失の支払額 | △72 | △884 |
| 法人税等の支払額 | △9,748 | △7,353 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 8,197 | 10,373 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △30,194 | △34,564 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △1,377 | △1,215 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △3,603 | △978 |
| 投資有価証券の売却及び償還による収入 | — | 2,003 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入 | 707 | — |
| 貸付けによる支出 | △506 | △1,284 |
| 貸付金の回収による収入 | 559 | 747 |
| その他 | 399 | 135 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △34,015 | △35,155 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|----------------------------|--|--|
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 (△は減少) | △1,696 | 8,964 |
| コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少) | 14,987 | 10,004 |
| 長期借入れによる収入 | 17,178 | 14,800 |
| 長期借入金の返済による支出 | △1,269 | △6,325 |
| 少数株主への配当金の支払額 | △113 | △76 |
| 配当金の支払額 | △2,838 | △2,827 |
| 自己株式の取得による支出 | △1,032 | — |
| その他 | 3 | △19 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 25,220 | 24,521 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △107 | △1,142 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | △705 | △1,403 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 6,483 | 6,126 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | 348 | 266 |
| 非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額 | — | 20 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | ※ 6,126 | ※ 5,008 |

継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|-----------------|--|--|
| 1. 連結の範囲に関する事項 | <p>① 連結子会社の数 23社 主要な連結子会社名 (株)オプテス、ゼオン化成(株)、東京材料(株)、Zeon Chemicals Inc.、Zeon Chemicals Europe Ltd. なお、前連結会計年度において非連結子会社でありましたZeon Italia S.r.l.、瑞翁貿易(上海)有限公司及び瑞翁化工(広州)有限公司については重要性が増大したことにより、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。 また、前連結会計年度において連結子会社でありましたRiverport Corporationは、清算に伴い当連結会計年度より連結範囲から除外しております。</p> <p>② 主要な非連結子会社の名称等 主要な非連結子会社名 Tokyo Zairyo (Thailand) Co., Ltd. (連結範囲から除いた理由) 非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響は及ぼしていないためであります。</p> | <p>① 連結子会社の数 23社 主要な連結子会社名 ゼオン化成(株)、東京材料(株)、Zeon Chemicals Inc.、Zeon Chemicals Europe Ltd. なお、前連結会計年度において非連結子会社でありましたTokyo Zairyo (Thailand) Co., Ltd.については重要性が増大したことにより、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。 また、前連結会計年度において連結子会社であった株式会社オプテスは、平成21年1月1日付で当社と合併いたしました。</p> <p>② 主要な非連結子会社の名称等 主要な非連結子会社名 Telene S.A.S. (連結範囲から除いた理由) 同左</p> |
| 2. 持分法の適用に関する事項 | <p>① 持分法適用の非連結子会社数 1社 会社名 ゼオン・ドイッチ・ランド社 なお、前連結会計年度において持分法適用会社でありました株式会社ゼオン分析センターは清算に伴い、当連結会計年度より持分法の適用の範囲から除外しております。</p> <p>② 持分法適用の関連会社数 該当なし</p> <p>③ 持分法を適用していない非連結子会社 (Tokyo Zairyo (Thailand) Co., Ltd. 他) 及び関連会社 (岡山ブタジエン(株)他) は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。</p> <p>④ 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、直近の会計期間に係る財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p> | <p>① 持分法適用の非連結子会社数 1社 会社名 ゼオン・ドイッチ・ランド社</p> <p>② 持分法適用の関連会社数 該当なし</p> <p>③ 持分法を適用していない非連結子会社 (Telene S.A.S. 他) 及び関連会社 (岡山ブタジエン(株)他) は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。</p> <p>④ 持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、直近の会計期間に係る財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p> |

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|----------------------|---|--|
| 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項 | <p>連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。</p> <p>ゼオン・ケミカルズ社 12月31日 *1 ゼオン・ケミカルズ・ヨーロッパ社 12月31日 *1 ゼオン・ヨーロッパ社 12月31日 *1 ゼオン・ケミカルズ・リミテッド・パートナーシップ 12月31日 *1 ゼオン・ケミカルズ・タイラント社 12月31日 *1 ゼオンアジア社 12月31日 *1 ゼオン・G P・L L C社 12月31日 *1 済新(株) 12月31日 *1 ゼオン・ドゥ・ブラジル社 12月31日 *1 ゼオン・イタリア社 12月31日 *1 瑞翁貿易(上海)有限公司 12月31日 *1 瑞翁化工(広州)有限公司 12月31日 *1</p> <p>*1: 連結子会社の決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p> | <p>連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。</p> <p>ゼオン・ケミカルズ社 12月31日 *1 ゼオン・ケミカルズ・ヨーロッパ社 12月31日 *1 ゼオン・ヨーロッパ社 12月31日 *1 ゼオン・ケミカルズ・リミテッド・パートナーシップ 12月31日 *1 ゼオン・ケミカルズ・タイラント社 12月31日 *1 ゼオンアジア社 12月31日 *1 ゼオン・G P・L L C社 12月31日 *1 済新(株) 12月31日 *1 ゼオン・ドゥ・ブラジル社 12月31日 *1 ゼオン・イタリア社 12月31日 *1 瑞翁貿易(上海)有限公司 12月31日 *1 瑞翁化工(広州)有限公司 12月31日 *1 トウキョウザイリョウ・タイラント社 12月31日 *1</p> <p>*1: 連結子会社の決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p> |
| 4. 会計処理基準に関する事項 | <p>① 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定) 時価のないもの 移動平均法による原価法</p> <p>(2) デリバティブ 時価法</p> | <p>① 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p> <p>(2) デリバティブ 同左</p> |

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|--|--|---|
| | <p>(3) たな卸資産</p> <p>当社及び国内連結子会社は、主として総平均法に基づく原価法を採用し、在外連結子会社は、主として移動平均法に基づく低価法により評価しております。</p> | <p>(3) たな卸資産</p> <p>当社及び国内連結子会社は、主として総平均法に基づく原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用し、在外連結子会社は、主として移動平均法に基づく低価法により評価しております。</p> <p><会計方針の変更></p> <p>当社及び国内連結子会社は、通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分）が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。</p> <p>また、従来営業外費用に計上していた「たな卸資産処分損」（当連結会計年度1,374百万円）につきましては、当連結会計年度より売上原価に計上しております。</p> <p>これにより、営業利益は3,449百万円、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ2,075百万円減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> |

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|--|--|---|
| | <p>② 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産 主として定率法を採用しております。</p> <p><会計方針の変更></p> <p>当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。</p> <p>これにより、営業利益は795百万円減少し、経常利益及び税金等調整前当期純利益は798百万円減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p><追加情報></p> <p>当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。</p> <p>この結果、従来の方法に比べ、営業利益は830百万円減少し、経常利益及び税金等調整前当期純利益は856百万円減少しております。なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法を採用しております。</p> <p>なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(主として5年)に基づく定額法を採用しております。</p> | <p>② 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p><追加情報></p> <p>当社及び一部の国内連結子会社は、平成20年度の法人税法改正に伴う法定耐用年数の変更を契機として見直しを行い、一部の機械装置について、当連結会計年度より、耐用年数の変更を行っております。</p> <p>これにより、営業利益は1,764百万円減少し、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ1,772百万円減少しております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>(2) 無形固定資産 同左</p> |

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|--|--|--|
| | <p style="text-align: center;">—————</p> <p>③ 重要な引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員の賞与の支給に備えるため、主として支給見込額により設定しております。</p> | <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 <会計方針の変更> 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当連結会計年度より、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 これによる当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。</p> <p>③ 重要な引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> |

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|--|---|---|
| | <p>(3) 退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>なお、一部国内連結子会社の退職給付債務については、退職給付に係る自己都合要支給額又は年金財政計算上の責任準備金の額を用いております。</p> <p>過去勤務債務（当社及び在外連結子会社によるもの）については、一定の年数（9～13年）で償却しております。</p> <p>数理計算上の差異は、主としてその発生時の従業員の平均残存勤務期間及び当該期間以内の一定の年数（9～13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 環境対策引当金</p> <p>将来の環境対策に要する支出（ポリ塩化ビフェニル廃棄物の処理費用等）のうち、当連結会計年度末において発生していると認められる金額を計上しております。</p> <p>(5) その他の引当金</p> <p>修繕引当金</p> <p>製造設備の定期修繕に要する支出に備えるため、発生費用見込額を期間に応じて配分し、当連結会計期間に対応する額を計上しております。</p> <p>役員退職慰労引当金</p> <p>当社は監査役に対する退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を引当計上しております。また、国内連結子会社の一部は役員退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を引当計上しております。</p> <p>④ 重要な外貨建資産又は負債の換算基準</p> <p>外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、在外子会社等の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、為替換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めております。</p> | <p>(3) 退職給付引当金</p> <p>同左</p> <p>(4) 環境対策引当金</p> <p>同左</p> <p>(5) その他の引当金</p> <p>修繕引当金</p> <p>同左</p> <p>役員退職慰労引当金</p> <p>同左</p> <p>④ 重要な外貨建資産又は負債の換算基準</p> <p>同左</p> |

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|--------------------------|--|--|
| | <p>⑤ 重要なリース取引の処理方法 当社及び国内連結子会社は、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、在外連結子会社については、主として通常の売買取引に準じた会計処理によっております。</p> <p>⑥ 重要なヘッジ会計の方法 (1) ヘッジ会計の方法 原則として繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、為替予約取引については、振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を採用しております。また、金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 為替予約取引及び金利スワップ取引 ヘッジ対象 為替予約取引 外貨建売掛金、外貨建買掛金及び外貨建予定取引 金利スワップ取引 社債、借入金</p> <p>(3) ヘッジ方針 当社グループは、原則として為替変動リスク及び金利変動リスクを回避軽減する目的でデリバティブ取引を利用しております。そのうち予定取引については、実需原則に基づき為替予約取引を行うものとしております。また、取引の契約先は信用度の高い金融機関に限定しております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 為替予約取引については、実需の範囲内で行っているため、また、金利スワップ取引については、特例処理であるため有効性の評価を省略しております。</p> <p>⑦ その他連結財務諸表作成のための重要な事項 (1) 消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。</p> | <p>⑤ 重要なヘッジ会計の方法 (1) ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 同左 ヘッジ対象 同左</p> <p>(3) ヘッジ方針 同左</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 同左</p> <p>⑥ その他連結財務諸表作成のための重要な事項 (1) 消費税等の会計処理 同左</p> |
| 5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 | 連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。 | 同左 |
| 6. のれん及び負債ののれんの償却に関する事項 | 主として10年間及び15年間の定額法により償却を行っております。但し、金額に重要性がない場合は発生時に一括償却しております。 | 同左 |

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|----------------------------|--|--|
| 7. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 | 手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなります。 | 同左 |

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更

| 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|--|--|
| ————— | <p><連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い></p> <p>当連結会計年度より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。</p> <p>これによる当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。</p> |

表示方法の変更

| 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|---|---|
| <p>(連結貸借対照表関係)</p> <p>—————</p> <p>(連結損益計算書関係)</p> <p>(1)「償却債権取立益」は、特別利益の総額の10/100以下となったため、当連結会計年度から特別利益の「その他」に含めて表示しております。金額は5百万円であります。</p> <p>(2)「貸倒引当金戻入額」は、特別利益の総額の10/100以下となったため、当連結会計年度から特別利益の「その他」に含めて表示しております。金額は20百万円であります。</p> <p>(3)「減損損失」は、特別損失の総額の10/100以下となったため、当連結会計年度から特別損失の「その他」に含めて表示しております。金額は256百万円であります。</p> | <p>(連結貸借対照表関係)</p> <p>「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日 内閣府令第50号)が適用となることに伴い、前連結会計年度において、「たな卸資産」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」に区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「たな卸資産」に含まれる「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」は、それぞれ42,711百万円、4,558百万円、8,752百万円であります。</p> <p>(連結損益計算書関係)</p> <p>(1)「訴訟関連損失」は、特別損失の総額の10/100以下となったため、当連結会計年度から特別損失の「その他」に含めて表示しております。金額は32百万円であります。</p> <p>(2)「減損損失」は、前連結会計年度においては、特別損失の「その他」に含めて表示しておりましたが、特別損失の総額の10/100を超えたため、区分掲記しております。なお、前連結会計年度の特別損失の「その他」に含まれている「減損損失」は256百万円であります。</p> <p>(3)「投資有価証券評価損」は、前連結会計年度においては、特別損失の「その他」に含めて表示しておりましたが、特別損失の総額の10/100を超えたため、区分掲記しております。なお、前連結会計年度の特別損失の「その他」に含まれている「投資有価証券評価損」は6百万円であります。</p> |

| <p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)</p> | <p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p> |
|---|---|
| <p>(連結キャッシュ・フロー計算書関係)</p> <p>(1)営業活動によるキャッシュ・フローの「修繕引当金の増加(△減少)額」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「修繕引当金の増加(△減少)額」は421百万円であります。</p> <p>(2)営業活動によるキャッシュ・フローの「訴訟関連費用」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「訴訟関連費用」は489百万円であります。</p> <p>(3)投資活動によるキャッシュ・フローの「貸付けによる支出」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「貸付けによる支出」は△103百万円であります。</p> <p>(4)投資活動によるキャッシュ・フローの「貸付金の回収による収入」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「貸付金の回収による収入」は371百万円であります。</p> <p>(5)投資活動によるキャッシュ・フローの「長期前払費用に係る支出」は、当連結会計年度において金額的重要性が乏しくなったため「その他」に含めて表示しております。なお、当連結会計年度の「その他」に含まれている「長期前払費用に係る支出」は△22百万円であります。</p> <p>(6)財務活動によるキャッシュ・フローの「自己株式の取得による支出」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「自己株式の取得による支出」は△10百万円であります。</p> | <p>(4)「過年度法人税等」は、前連結会計年度においては、「法人税、住民税及び事業税」含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「法人税、住民税及び事業税」に含まれている「過年度法人税等」は347百万円であります。</p> <p>(連結キャッシュ・フロー計算書関係)</p> <p>(1)営業活動によるキャッシュ・フローの「退職給付引当金の増減額(△は減少)」は、当連結会計年度において金額的重要性が乏しくなったため「その他」に含めて表示しております。なお、当連結会計年度の「その他」に含まれている「退職給付引当金の増減額(△は減少)」は△280百万円であります。</p> <p>(2)営業活動によるキャッシュ・フローの「修繕引当金の増減額(△は減少)」は、当連結会計年度において金額的重要性が乏しくなったため「その他」に含めて表示しております。なお、当連結会計年度の「その他」に含まれている「修繕引当金の増減額(△は減少)」は138百万円であります。</p> <p>(3)営業活動によるキャッシュ・フローの「補助金収入」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「補助金収入」は△534百万円であります。</p> <p>(4)営業活動によるキャッシュ・フローの「訴訟関連損失」は、当連結会計年度において金額的重要性が乏しくなったため「その他」に含めて表示しております。なお、当連結会計年度の「その他」に含まれている「訴訟関連損失」は32百万円であります。</p> <p>(5)営業活動によるキャッシュ・フローの「減損損失」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「減損損失」は256百万円であります。</p> <p>(6)営業活動によるキャッシュ・フローの「補助金の受取額」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「補助金の受取額」は350百万円であります。</p> |

| 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|--|---|
| | <p>(7)投資活動によるキャッシュ・フローの「投資有価証券の売却及び償還による収入」は、前連結会計年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が増したため区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「その他」に含まれている「投資有価証券の売却及び償還による収入」は127百万円であります。</p> <p>(8)財務活動によるキャッシュ・フローの「自己株式の取得による支出」は、当連結会計年度において金額的重要性が乏しくなったため「その他」に含めて表示しております。なお、当連結会計年度の「その他」に含まれている「自己株式の取得による支出」は△3百万円であります。</p> |

注記事項

(連結貸借対照表関係)

| 前連結会計年度 (平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (平成21年3月31日) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------|----------|-------------------|--------|--------------|--|----|-------|--------|-------|---|----------|-----------|----------|-------|-------|--------|-------|---|-----------|--|------------|----------|-------------------|--------|--------------|--|----|-------|--------|-----|---|--------|-----------|----------|--------|--------|---|-----------|
| <p>※1. 有形固定資産の減価償却累計額 188,401百万円</p> <p>※2. 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">投資有価証券(株式)</td> <td style="text-align: right;">1,305百万円</td> </tr> <tr> <td>投資その他の資産のその他(出資金)</td> <td style="text-align: right;">225百万円</td> </tr> </table> <p>※3. 担保資産及び担保付債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">担保に供している資産の額</td> </tr> <tr> <td style="width: 80%;">土地</td> <td style="text-align: right;">25百万円</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">3,632</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,657百万円</td> </tr> </table> <p>上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払手形及び買掛金</td> <td style="text-align: right;">3,801百万円</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">2,500</td> </tr> <tr> <td>その他(※)</td> <td style="text-align: right;">9,348</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">15,649百万円</td> </tr> </table> <p>(※)水島エコワークス(株)の銀行取引に係る債務であります。</p> <p>上記のほか、当社の英国連結子会社ゼオン・ケミカルズ・ヨーロッパ社がその全ての資産(5,002百万円)を同社の銀行借入(52百万円)の担保に供しております。</p> | 投資有価証券(株式) | 1,305百万円 | 投資その他の資産のその他(出資金) | 225百万円 | 担保に供している資産の額 | | 土地 | 25百万円 | 投資有価証券 | 3,632 | 計 | 3,657百万円 | 支払手形及び買掛金 | 3,801百万円 | 長期借入金 | 2,500 | その他(※) | 9,348 | 計 | 15,649百万円 | <p>※1. 有形固定資産の減価償却累計額 199,722百万円</p> <p>※2. 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">投資有価証券(株式)</td> <td style="text-align: right;">1,235百万円</td> </tr> <tr> <td>投資その他の資産のその他(出資金)</td> <td style="text-align: right;">215百万円</td> </tr> </table> <p>※3. 担保資産及び担保付債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">担保に供している資産の額</td> </tr> <tr> <td style="width: 80%;">土地</td> <td style="text-align: right;">25百万円</td> </tr> <tr> <td>投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">234</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">259百万円</td> </tr> </table> <p>上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払手形及び買掛金</td> <td style="text-align: right;">2,122百万円</td> </tr> <tr> <td>その他(※)</td> <td style="text-align: right;">10,313</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">12,435百万円</td> </tr> </table> <p>(※)水島エコワークス(株)の銀行取引に係る債務であります。</p> | 投資有価証券(株式) | 1,235百万円 | 投資その他の資産のその他(出資金) | 215百万円 | 担保に供している資産の額 | | 土地 | 25百万円 | 投資有価証券 | 234 | 計 | 259百万円 | 支払手形及び買掛金 | 2,122百万円 | その他(※) | 10,313 | 計 | 12,435百万円 |
| 投資有価証券(株式) | 1,305百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 投資その他の資産のその他(出資金) | 225百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担保に供している資産の額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地 | 25百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 投資有価証券 | 3,632 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 3,657百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払手形及び買掛金 | 3,801百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期借入金 | 2,500 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他(※) | 9,348 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 15,649百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 投資有価証券(株式) | 1,235百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 投資その他の資産のその他(出資金) | 215百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担保に供している資産の額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地 | 25百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 投資有価証券 | 234 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 259百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払手形及び買掛金 | 2,122百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他(※) | 10,313 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 12,435百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 前連結会計年度 (平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (平成21年3月31日) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------|--------|----------------|----|-----------|-------|-----|-----|---|----------|--|--------|--------------|-----------|--------|---|-----|--------|---|-------------------|--------|-----------|-------|-----|-----|-------|-----|---|----------|--------------|-----------|--------|---|-----|--------|
| <p>4. 偶発債務</p> <p>保証債務</p> <p>連結会社以外の会社及び従業員の金融機関等からの借入金に対する債務保証</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">ゼオン・アドバンスド・ポリミクス社</td> <td style="text-align: right;">297百万円</td> </tr> <tr> <td>東材国際貿易(上海)有限公司</td> <td style="text-align: right;">19</td> </tr> <tr> <td>(株) T F C</td> <td style="text-align: right;">2,200</td> </tr> <tr> <td>従業員</td> <td style="text-align: right;">601</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,117百万円</td> </tr> </table> <p>係争事件に係る賠償義務</p> <p>当社および当社の欧州子会社(ゼオン・ヨーロッパ社およびゼオン・ケミカルズ・ヨーロッパ社)は、平成19年5月に欧州委員会より、欧州のNBR(アクリロニトリル・ブタジエン・ラバー)取引における競争制限取引の疑いに関する異議告知書を受領し、同年6月、その内容を検討の上答弁書を提出しました。平成20年1月に欧州委員会は、当社グループに対して、平成12年から平成14年の期間の違反行為について5.36百万ユーロ(約8.4億円)の制裁金を課す決定を下しました。これに対し当社グループは、提訴した場合の裁判の長期化による時間的・費用的負担が多くなること等を総合的に考慮し、提訴せずに制裁金の支払いに応じることとしました。制裁金は平成20年3月期の連結財務諸表に計上し、本年4月に支払いを済ませました。</p> <p>※5. 受取手形に含まれる劣後部分の信託受益権</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="text-align: right;">672百万円</td> </tr> </table> <p>6. _____</p> <p>7. 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">15,000百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">15,000</td> </tr> </table> <p>※8. 圧縮記帳</p> <p>有形固定資産の取得価額から国庫補助金による圧縮記帳累計額850百万円を控除しております。</p> <p>※9. 米国会計基準が適用される在外連結子会社が、米国財務会計基準書(SFAS)第158号に従って年金負債を追加計上したことに伴う純資産の調整額であります。</p> | ゼオン・アドバンスド・ポリミクス社 | 297百万円 | 東材国際貿易(上海)有限公司 | 19 | (株) T F C | 2,200 | 従業員 | 601 | 計 | 3,117百万円 | | 672百万円 | 貸出コミットメントの総額 | 15,000百万円 | 借入実行残高 | - | 差引額 | 15,000 | <p>4. 偶発債務</p> <p>保証債務</p> <p>連結会社以外の会社及び従業員の金融機関等からの借入金等に対する債務保証</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">ゼオン・アドバンスド・ポリミクス社</td> <td style="text-align: right;">246百万円</td> </tr> <tr> <td>(株) T F C</td> <td style="text-align: right;">1,980</td> </tr> <tr> <td>従業員</td> <td style="text-align: right;">509</td> </tr> <tr> <td>その他5社</td> <td style="text-align: right;">152</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,887百万円</td> </tr> </table> <p>5. _____</p> <p>※6. 未収入金には手形債権の流動化を目的とした債権譲渡に伴う支払留保額が1,271百万円含まれております。</p> <p>7. 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">15,000百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">15,000</td> </tr> </table> <p>※8. 圧縮記帳</p> <p>有形固定資産の取得価額から国庫補助金による圧縮記帳累計額1,600百万円を控除しております。</p> <p>※9. 同左</p> | ゼオン・アドバンスド・ポリミクス社 | 246百万円 | (株) T F C | 1,980 | 従業員 | 509 | その他5社 | 152 | 計 | 2,887百万円 | 貸出コミットメントの総額 | 15,000百万円 | 借入実行残高 | - | 差引額 | 15,000 |
| ゼオン・アドバンスド・ポリミクス社 | 297百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東材国際貿易(上海)有限公司 | 19 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (株) T F C | 2,200 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 従業員 | 601 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 3,117百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 672百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 貸出コミットメントの総額 | 15,000百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 借入実行残高 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 差引額 | 15,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオン・アドバンスド・ポリミクス社 | 246百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (株) T F C | 1,980 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 従業員 | 509 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他5社 | 152 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 2,887百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 貸出コミットメントの総額 | 15,000百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 借入実行残高 | - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 差引額 | 15,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(連結損益計算書関係)

| 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|----------|---------------|-------|-------|--------|----------|-----|------------|-----|---|------|----------|---------|-------|-------|--------|----------|-----|------------|-----|----|----|----|---------------|------------|---------------|-------|-------|-------------|----|-------|-----|
| <p>1. _____</p> <p>※2. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">運賃諸掛</td> <td style="text-align: right;">8,465百万円</td> </tr> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td style="text-align: right;">8,605</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td style="text-align: right;">12,276</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">611</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">754</td> </tr> </table> <p>※3. 固定資産売却益は、主として有形固定資産の土地の売却によるものであります。</p> <p>※4. 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費 12,276百万円</p> <p>※5. 特別損失の「訴訟関連費用」は、NBR（アクリロニトリル・ブタジエン・ラバー）の価格協定の疑いに関して当社グループが計上した費用等であります。 1,123百万円</p> <p>6. _____</p> | 運賃諸掛 | 8,465百万円 | 従業員給料手当 | 8,605 | 研究開発費 | 12,276 | 賞与引当金繰入額 | 611 | 退職給付引当金繰入額 | 754 | <p>※1. 期末たな卸高は収益性の低価に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。</p> <p style="text-align: right;">3,449百万円</p> <p>※2. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">運賃諸掛</td> <td style="text-align: right;">7,055百万円</td> </tr> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td style="text-align: right;">8,247</td> </tr> <tr> <td>研究開発費</td> <td style="text-align: right;">11,320</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">638</td> </tr> <tr> <td>退職給付引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">955</td> </tr> </table> <p>※3. 固定資産売却益は、主として有形固定資産の土地の売却によるものであります。</p> <p>※4. 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費 11,320百万円</p> <p>5. _____</p> <p>※6. 減損損失 当連結会計年度において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上しました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">場所</th> <th style="width: 20%;">用途</th> <th style="width: 20%;">種類</th> <th style="width: 40%;">減損損失 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>富山県 高岡市</td> <td>高機能部材 生産設備</td> <td>機械装置等</td> <td style="text-align: right;">1,248</td> </tr> <tr> <td>富山県 氷見市他</td> <td>遊休</td> <td>機械装置等</td> <td style="text-align: right;">297</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社グループは、事業用資産に関しては、継続的に損益の把握を実施している管理会計上の区分を基礎としてグルーピングを行っております。また、事業の用に供していない遊休資産等については個別資産別に減損損失認識の判定を行っております。</p> <p>事業用資産については、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスの事業について減損の兆候を個別に検討のうえ、回収可能価額が帳簿価額に満たない事業について回収可能価額まで帳簿価額を減額いたしました。なお回収可能価額の算定は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため割引計算は行っておりません。</p> <p>また遊休状態にあると認められ今後の利用見込みがない資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。回収可能価額は正味売却価額により測定しており、他への転用または売却が困難であるため、備忘価額で評価しております。</p> | 運賃諸掛 | 7,055百万円 | 従業員給料手当 | 8,247 | 研究開発費 | 11,320 | 賞与引当金繰入額 | 638 | 退職給付引当金繰入額 | 955 | 場所 | 用途 | 種類 | 減損損失 (百万円) | 富山県 高岡市 | 高機能部材 生産設備 | 機械装置等 | 1,248 | 富山県 氷見市他 | 遊休 | 機械装置等 | 297 |
| 運賃諸掛 | 8,465百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 従業員給料手当 | 8,605 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 研究開発費 | 12,276 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 賞与引当金繰入額 | 611 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 退職給付引当金繰入額 | 754 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 運賃諸掛 | 7,055百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 従業員給料手当 | 8,247 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 研究開発費 | 11,320 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 賞与引当金繰入額 | 638 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 退職給付引当金繰入額 | 955 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 場所 | 用途 | 種類 | 減損損失 (百万円) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 富山県 高岡市 | 高機能部材 生産設備 | 機械装置等 | 1,248 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 富山県 氷見市他 | 遊休 | 機械装置等 | 297 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 前連結会計年度末株式数(千株) | 当連結会計年度増加株式数(千株) | 当連結会計年度減少株式数(千株) | 当連結会計年度末株式数(千株) |
|-------|-----------------|------------------|------------------|-----------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 242,075 | — | — | 242,075 |
| 合計 | 242,075 | — | — | 242,075 |
| 自己株式 | | | | |
| 普通株式 | 4,048 | 2,004 | 38 | 6,014 |
| 合計 | 4,048 | 2,004 | 38 | 6,014 |

注) 自己株式の数の増加は公開買付けによる取得および単元未満株式の買取りによる増加であり、減少はストック・オプションの行使および単元未満株主の売渡請求によるものであります。

2. 新株予約権に関する事項

| 区分 | 新株予約権の内訳 | 新株予約権の目的となる株式の種類 | 新株予約権の目的となる株式の数(千株) | | | | 当連結会計年度末残高(百万円) |
|-----------|---------------------|------------------|---------------------|-----------|-----------|----------|-----------------|
| | | | 前連結会計年度末 | 当連結会計年度増加 | 当連結会計年度減少 | 当連結会計年度末 | |
| 提出会社(親会社) | ストック・オプションとしての新株予約権 | | — | | | | 151 |
| 連結子会社 | — | | — | | | | — |
| | 合計 | | — | | | | 151 |

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額(百万円) | 1株当たり配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-------------|-------------|------------|-------------|
| 平成19年6月28日 定時株主総会 | 普通株式 | 1,428 | 6 | 平成19年3月31日 | 平成19年6月29日 |
| 平成19年11月7日 取締役会 | 普通株式 | 1,428 | 6 | 平成19年9月30日 | 平成19年11月30日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額(百万円) | 配当の原資 | 1株当たり配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-------------|-------|-------------|------------|------------|
| 平成20年6月27日 定時株主総会 | 普通株式 | 1,416 | 利益剰余金 | 6 | 平成20年3月31日 | 平成20年6月30日 |

当連結会計年度（自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 前連結会計年度末株式数（千株） | 当連結会計年度増加株式数（千株） | 当連結会計年度減少株式数（千株） | 当連結会計年度末株式数（千株） |
|-------|-----------------|------------------|------------------|-----------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 242,075 | — | — | 242,075 |
| 合計 | 242,075 | — | — | 242,075 |
| 自己株式 | | | | |
| 普通株式 | 6,014 | 7 | 6 | 6,014 |
| 合計 | 6,014 | 7 | 6 | 6,014 |

注) 自己株式の数の増加は単元未満株式の買取りによる増加であり、減少は単元未満株主の売渡請求によるものであります。

2. 新株予約権に関する事項

| 区分 | 新株予約権の内訳 | 新株予約権の目的となる株式の種類 | 新株予約権の目的となる株式の数（千株） | | | | 当連結会計年度末残高（百万円） |
|-----------|---------------------|------------------|---------------------|-----------|-----------|----------|-----------------|
| | | | 前連結会計年度末 | 当連結会計年度増加 | 当連結会計年度減少 | 当連結会計年度末 | |
| 提出会社（親会社） | ストック・オプションとしての新株予約権 | | — | | | | 201 |
| 連結子会社 | — | | — | | | | — |
| 合計 | | | — | | | | 201 |

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額（百万円） | 1株当たり配当額（円） | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-------------|-------------|------------|-------------|
| 平成20年6月27日 定時株主総会 | 普通株式 | 1,416 | 6 | 平成20年3月31日 | 平成20年6月30日 |
| 平成20年11月13日 取締役会 | 普通株式 | 1,416 | 6 | 平成20年9月30日 | 平成20年11月28日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額（百万円） | 配当の原資 | 1株当たり配当額（円） | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-------------|-------|-------------|------------|------------|
| 平成21年6月26日 定時株主総会 | 普通株式 | 708 | 利益剰余金 | 3 | 平成21年3月31日 | 平成21年6月29日 |

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

| 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|--|--|
| ※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年3月31日現在) (百万円) | ※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年3月31日現在) (百万円) |
| 現金及び預金勘定 6,509 | 現金及び預金勘定 5,263 |
| 預入期間が3か月を超える定期預金 △383 | 預入期間が3か月を超える定期預金 △255 |
| 現金及び現金同等物 6,126 | 現金及び現金同等物 5,008 |

(リース取引関係)

決算短信における開示の必要性が大きいと考えられるため開示を省略いたします。

(有価証券関係)

前連結会計年度

1. その他有価証券で時価のあるもの (平成20年3月31日現在)

| | | 取得原価 (百万円) | 連結貸借対照表計上 額 (百万円) | 差額 (百万円) |
|----------------------------|----------|---------------|----------------------|----------|
| 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの | (1) 株式 | 19,360 | 28,731 | 9,371 |
| | (2) 債券 | | | |
| | ①国債・地方債等 | — | — | — |
| | ②社債 | — | — | — |
| | ③その他 | — | — | — |
| | (3) その他 | — | — | — |
| | 小計 | 19,360 | 28,731 | 9,371 |
| 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの | (1) 株式 | 3,140 | 2,448 | △692 |
| | (2) 債券 | | | |
| | ①国債・地方債等 | — | — | — |
| | ②社債 | — | — | — |
| | ③その他 | — | — | — |
| | (3) その他 | — | — | — |
| | 小計 | 3,140 | 2,448 | △692 |
| | 合計 | 22,500 | 31,179 | 8,679 |

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

| 売却額 (百万円) | 売却益の合計額 (百万円) | 売却損の合計額 (百万円) |
|-----------|---------------|---------------|
| 100 | 4 | — |

3. 時価評価されていない主な有価証券の内容 (平成20年3月31日現在)

| | 連結貸借対照表計上額 (百万円) |
|------------------|------------------|
| (1) 満期保有目的の債券 | |
| 流通性のない社債 | — |
| 流通性のない地方債 | — |
| (2) その他有価証券 | |
| 非上場株式 | 3,397 |
| 上場されていない内国債以外の債券 | — |
| マネー・マネジメント・ファンド | — |

4. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額 (平成20年3月31日現在)

| | 1年以内 (百万円) | 1年超5年以内 (百万円) | 5年超10年以内 (百万円) | 10年超 (百万円) |
|---------------|------------|------------------|-------------------|------------|
| 1. 債券 | | | | |
| (1) 流通性のない地方債 | — | — | — | — |
| (2) 流通性のない社債 | — | — | — | — |
| (3) その他 | — | — | — | — |
| 2. その他 | — | — | — | — |
| 合計 | — | — | — | — |

当連結会計年度

1. その他有価証券で時価のあるもの (平成21年3月31日現在)

| | | 取得原価 (百万円) | 連結貸借対照表計上 額 (百万円) | 差額 (百万円) |
|----------------------------|----------|---------------|----------------------|----------|
| 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの | (1) 株式 | 13,080 | 15,685 | 2,604 |
| | (2) 債券 | | | |
| | ①国債・地方債等 | — | — | — |
| | ②社債 | — | — | — |
| | ③その他 | — | — | — |
| | (3) その他 | — | — | — |
| | 小計 | 13,080 | 15,685 | 2,604 |
| 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの | (1) 株式 | 10,068 | 7,530 | △2,539 |
| | (2) 債券 | | | |
| | ①国債・地方債等 | — | — | — |
| | ②社債 | — | — | — |
| | ③その他 | — | — | — |
| | (3) その他 | — | — | — |
| | 小計 | 10,068 | 7,530 | △2,539 |
| 合計 | | 23,149 | 23,214 | 66 |

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

| 売却額 (百万円) | 売却益の合計額 (百万円) | 売却損の合計額 (百万円) |
|-----------|---------------|---------------|
| 3 | 2 | — |

3. 時価評価されていない主な有価証券の内容 (平成21年3月31日現在)

| | 連結貸借対照表計上額 (百万円) |
|------------------|------------------|
| (1) 満期保有目的の債券 | |
| 流通性のない社債 | — |
| 流通性のない地方債 | — |
| (2) その他有価証券 | |
| 非上場株式 | 1,399 |
| 上場されていない内国債以外の債券 | — |
| マネー・マネジメント・ファンド | — |

4. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額 (平成21年3月31日現在)

| | 1年以内 (百万円) | 1年超5年以内 (百万円) | 5年超10年以内 (百万円) | 10年超 (百万円) |
|---------------|------------|------------------|-------------------|------------|
| 1. 債券 | | | | |
| (1) 流通性のない地方債 | — | — | — | — |
| (2) 流通性のない社債 | — | — | — | — |
| (3) その他 | — | — | — | — |
| 2. その他 | — | — | — | — |
| 合計 | — | — | — | — |

(デリバティブ取引関係)

決算短信における開示の必要性が大きいと考えられるため開示を省略いたします。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

前連結会計年度
(平成20年3月31日現在)

当連結会計年度
(平成21年3月31日現在)

当社及び一部国内連結子会社は、確定拠出年金制度及び前払退職金制度並びに退職一時金制度を併用しております。

また、当社は年金受給権者のみを対象とする閉鎖型適格退職年金制度を有しております。

一部在外連結子会社では確定給付型の制度を設けております。

同左

2. 退職給付債務に関する事項

| | 前連結会計年度 (平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (平成21年3月31日) |
|----------------------|-------------------------|-------------------------|
| イ. 退職給付債務 (百万円) | △24,281 | △20,035 |
| ロ. 年金資産 (百万円) | 10,621 | 6,130 |
| ハ. 退職給付引当金 (百万円) | 11,675 | 11,859 |
| ニ. 前払年金費用 (百万円) | △384 | △264 |
| 差引 (イ+ロ+ハ+ニ) (百万円) | △2,369 | △2,310 |
| (差引分内訳) | | |
| ホ. 未認識数理計算上の差異 (百万円) | △2,774 | △2,670 |
| ヘ. 未認識過去勤務債務 (百万円) | 405 | 360 |
| (ホ+ヘ) (百万円) | △2,369 | △2,310 |

前連結会計年度
(平成20年3月31日現在)

当連結会計年度
(平成21年3月31日現在)

(注) 1. 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

(注) 1. 同左

3. 退職給付費用に関する事項

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|-----------------------------|--|--|
| イ. 勤務費用 (注) 1 (百万円) | 845 | 844 |
| ロ. 利息費用 (百万円) | 926 | 900 |
| ハ. 期待運用収益 (百万円) | △728 | △609 |
| ニ. 数理計算上の差異の費用処理額 (百万円) | 365 | 1,056 |
| ホ. 過去勤務債務の費用処理額 (百万円) | △23 | △23 |
| ヘ. 退職給付費用 (イ+ロ+ハ+ニ+ホ) (百万円) | 1,384 | 2,168 |
| ト. 確定拠出年金の掛金 (百万円) | 433 | 424 |
| 計 | 1,817 | 2,591 |

前連結会計年度
(平成20年3月31日現在)当連結会計年度
(平成21年3月31日現在)

(注) 1. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「イ. 勤務費用」に計上しております。

(注) 1. 同左

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|-------------------|--|--|
| イ. 退職給付見込額の期間配分方法 | 主として期間定額基準 | 同左 |
| ロ. 割引率 | 期首 2.5%~5.8% 期末 2.5%~6.0% | 期首 2.5%~6.0% 期末 2.5%~6.3% |
| ハ. 期待運用収益率 (%) | 5.0 ~ 8.3 | 0.6 ~ 8.0 |
| ニ. 過去勤務債務の額の処理年数 | 9~13年 (当社及び在外連結子会社によるものであります。) | 同左 |
| ホ. 数理計算上の差異の処理年数 | 主として9年~13年 (発生時の従業員の平均残存勤務期間及び当該期間以内の一定の年数による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。) | 同左 |

(ストック・オプション等関係)

決算短信における開示の必要性が大きいと考えられるため開示を省略いたします。

(税効果会計関係)

| 前連結会計年度 (平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (平成21年3月31日) |
|---|---|
| 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 of 主な原因別の 内訳 (百万円) | 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 of 主な原因別の 内訳 (百万円) |
| 繰延税金資産 | 繰延税金資産 |
| たな卸資産 | たな卸資産 |
| 投資有価証券 | 減損損失 |
| 未実現損益 | 投資有価証券 |
| 未払金 | 未実現損益 |
| 賞与引当金 | 賞与引当金 |
| 退職給付引当金 | 退職給付引当金 |
| 修繕引当金 | 修繕引当金 |
| 繰越欠損金 | 環境対策引当金 |
| その他 | 繰越欠損金 |
| 繰延税金資産小計 | その他 |
| 評価性引当額 | 繰延税金資産小計 |
| 繰延税金資産合計 | 評価性引当額 |
| | 繰延税金資産合計 |
| 繰延税金負債 | 繰延税金負債 |
| 減価償却費 | 減価償却費 |
| 土地(全面時価評価法) | 土地(全面時価評価法) |
| 投資有価証券(全面時価評価法) | 未収還付事業税 |
| 固定資産圧縮積立金 | 固定資産圧縮積立金 |
| 留保利益 | 留保利益 |
| その他有価証券評価差額金 | その他 |
| その他 | 繰延税金負債小計 |
| 繰延税金負債小計 | 繰延税金負債小計 |
| 繰延税金資産の純額 | 繰延税金資産の純額 |

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

| 前連結会計年度 (平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (平成21年3月31日) |
|-------------------------|-------------------------|
| (百万円) | (百万円) |
| 流動資産－繰延税金資産 | 流動資産－繰延税金資産 |
| 固定資産－繰延税金資産 | 固定資産－繰延税金資産 |
| 流動負債－その他(繰延税金負債) | 流動負債－その他(繰延税金負債) |
| 固定負債－繰延税金負債 | 固定負債－繰延税金負債 |

| 前連結会計年度 (平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (平成21年3月31日) |
|---|---|
| 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳 | 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳 |
| (単位：%) | (単位：%) |
| 法定実効税率 (調整) | 法定実効税率 (調整) |
| 40.0 | 40.0 |
| 欠損子会社の税効果未認識額 | 評価性引当額 |
| 11.4 | △113.1 |
| 税額控除 | 在外連結子会社留保利益 |
| △5.8 | △36.4 |
| その他 | 税額控除 |
| 1.9 | △12.9 |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 未実現損益 |
| 47.5 | 11.9 |
| | 受取配当金等永久差異 |
| | △10.4 |
| | 過年度法人税等 |
| | 9.7 |
| | 交際費等永久差異 |
| | 8.9 |
| | 在外連結子会社税率差異 |
| | △8.6 |
| | その他 |
| | 3.2 |
| | 税効果会計適用後の法人税等の負担率 |
| | △107.7 |

(企業結合等関係)

前連結会計年度(自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

共通支配下の取引等

当社は、平成20年9月24日開催の取締役会における決議に基づき、当社の100%子会社である株式会社オブテスを平成21年1月1日付で吸収合併いたしました。

1. 対象となった事業の名称及びその事業の内容、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要

(1) 対象となった事業の名称及びその事業の内容

事業の名称 精密加工事業

事業の内容 光学機器用部品の製造、組立て及び販売 他

(2) 企業結合の法的形式

当社を吸収合併存続会社、株式会社オブテスを吸収合併消滅会社とする吸収合併

(3) 結合後企業の名称

日本ゼオン株式会社

(4) 取引の目的を含む取引の概要

株式会社オブテスは、光学フィルムや拡散板等の液晶ディスプレイ用部材を中心に製造販売を担う当社の100%子会社であり、これまで顧客の信頼を得ながら業容を拡大してまいりました。

しかしながら、市場環境の大きな変化によって精密加工事業の収益が悪化しております。

この度当社は、精密加工事業を当社の事業とすることにより、財務基盤を強化するとともに樹脂開発から成形加工まで一貫した製品開発体制を構築し、優れた品質と高いコスト競争力を確保する目的で、株式会社オブテスを吸収合併いたしました。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に係る会計基準」(企業会計審議会 平成15年10月31日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 最終改正平成19年11月15日)に基づき、共通支配下の取引として処理いたしました。

(セグメント情報)

a. 事業の種類別セグメント情報

前連結会計年度(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)

| | エラストマー素材事業 (百万円) | 高機能材料事業 (百万円) | その他の事業 (百万円) | 計 (百万円) | 消去又は全社 (百万円) | 連結 (百万円) |
|----------------------|---------------------|------------------|-----------------|------------|-----------------|-------------|
| I 売上高及び営業損益 | | | | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| (1)外部顧客に対する売上高 | 194,065 | 47,153 | 61,706 | 302,925 | — | 302,925 |
| (2)セグメント間の内部売上高又は振替高 | 1,646 | — | 639 | 2,285 | (2,285) | — |
| 計 | 195,711 | 47,153 | 62,345 | 305,209 | (2,285) | 302,925 |
| 営業費用 | 179,141 | 39,544 | 61,129 | 279,814 | (2,157) | 277,656 |
| 営業利益 | 16,570 | 7,609 | 1,216 | 25,395 | (127) | 25,268 |
| II 資産、減価償却費及び資本的支出 | | | | | | |
| 資産 | 169,909 | 82,873 | 36,103 | 288,885 | 46,845 | 335,730 |
| 減価償却費 | 8,535 | 8,937 | 718 | 18,190 | 1,307 | 19,497 |
| 資本的支出 | 10,556 | 22,395 | 590 | 33,541 | 1,960 | 35,500 |

(注) 1. 事業区分の方法及び各区分に属する主要製品

(1) 事業区分の方法

経営管理上採用している区分によっております。

(2) 各事業区分の主要製品

| 事業区分 | 主要製品 |
|------------|---|
| エラストマー素材事業 | 合成ゴム、合成ラテックス、化成品(C5石油樹脂、熱可塑性エラストマー等) |
| 高機能材料事業 | 化学品(合成香料、有機合成薬品等)、情報材料(電子材料、トナー関連製品等)、高機能樹脂(シクロオレフィンポリマー樹脂、シクロオレフィンポリマー成型品) |
| その他の事業 | RIM配合液、RIM成形品、医療器材、ブタジエン抽出技術等、塩化ビニル樹脂製造受託、塩ビコンパウンド、包装物流資材、住宅資材、その他 |

2. 資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は52,426百万円であり、その主なものは、親会社での長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

3. 会計方針の変更

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載の通り、当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合と比べ、当連結会計期間の営業費用は、エラストマー素材事業が288百万円、高機能材料事業が366百万円、その他の事業が141百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

4. 追加情報

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載の通り、当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合と比べ、当連結会計年度の営業費用は、エラストマー素材事業が647百万円、高機能材料事業が126百万円、その他の事業が57百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

当連結会計年度（自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）

| | エラストマー素材事業 (百万円) | 高機能材料事業 (百万円) | その他の事業 (百万円) | 計 (百万円) | 消去又は全社 (百万円) | 連結 (百万円) |
|-------------------------|---------------------|------------------|-----------------|------------|-----------------|-------------|
| I 売上高及び営業損益 | | | | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| (1)外部顧客に対する売上高 | 178,459 | 37,569 | 52,829 | 268,857 | — | 268,857 |
| (2)セグメント間の内部売上高又は振替高 | 1,498 | — | 2,322 | 3,820 | (3,820) | — |
| 計 | 179,957 | 37,569 | 55,151 | 272,678 | (3,820) | 268,857 |
| 営業費用 | 172,316 | 42,333 | 54,974 | 269,623 | (3,702) | 265,922 |
| 営業利益(△営業損失) | 7,642 | △4,764 | 177 | 3,055 | (119) | 2,936 |
| II 資産、減価償却費、減損損失及び資本的支出 | | | | | | |
| 資産 | 129,927 | 85,245 | 22,441 | 237,613 | 54,414 | 292,027 |
| 減価償却費 | 9,484 | 10,942 | 534 | 20,960 | 1,638 | 22,597 |
| 減損損失 | 104 | 1,442 | — | 1,546 | — | 1,546 |
| 資本的支出 | 9,432 | 18,332 | 280 | 28,044 | 1,452 | 29,496 |

(注) 1. 事業区分の方法及び各区分に属する主要製品

(1) 事業区分の方法

経営管理上採用している区分によっております。

(2) 各事業区分の主要製品

| 事業区分 | 主要製品 |
|------------|---|
| エラストマー素材事業 | 合成ゴム、合成ラテックス、化成品（C5石油樹脂、熱可塑性エラストマー等） |
| 高機能材料事業 | 化学品（合成香料、有機合成薬品等）、情報材料（電子材料、トナー関連製品等）、高機能樹脂（シクロオレフィンポリマー樹脂、シクロオレフィンポリマー成型品） |
| その他の事業 | RIM配合液、RIM成形品、医療器材、ブタジエン抽出技術等、塩ビコンパウンド、包装物流資材、住宅資材、その他 |

2. 資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は54,801百万円であり、その主なものは、親会社での長期投資資金（投資有価証券）及び管理部門に係る資産等であります。

3. 会計方針の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載の通り、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分）を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、営業利益がエラストマー素材事業で660百万円、高機能材料事業で2,500百万円、その他の事業で289百万円それぞれ減少しております。

4. 追加情報

(有形固定資産の耐用年数の変更)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載の通り、当社及び一部の国内連結子会社は、平成20年度の法人税法改正に伴う法定耐用年数の変更を契機として見直しを行い、一部の機械装置について、当連結会計年度より、耐用年数の変更を行っております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、営業利益がエラストマー素材事業で413百万円、高機能材料事業で1,340百万円、その他の事業で10百万円それぞれ減少しております。

b. 所在地別セグメント情報

前連結会計年度(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)

| | 日本 (百万円) | 北米 (百万円) | ヨーロッパ (百万円) | アジア (百万円) | 計 (百万円) | 消去又は全社 (百万円) | 連結 (百万円) |
|-----------------------|-------------|-------------|----------------|--------------|------------|-----------------|-------------|
| I 売上高及び営業損益 | | | | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 239,371 | 24,675 | 20,854 | 18,024 | 302,925 | — | 302,925 |
| (2) セグメント間の内部売上高又は振替高 | 29,585 | 8,763 | 662 | 1,832 | 40,843 | (40,843) | — |
| 計 | 268,956 | 33,438 | 21,516 | 19,857 | 343,767 | (40,843) | 302,925 |
| 営業費用 | 248,173 | 29,958 | 20,958 | 19,240 | 318,329 | (40,672) | 277,656 |
| 営業利益(△営業損失) | 20,783 | 3,480 | 558 | 617 | 25,438 | (170) | 25,268 |
| II 資産 | 262,278 | 27,712 | 10,623 | 8,925 | 309,538 | 26,192 | 335,730 |

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっています。

2. 各区分に属する主な国又は地域

- (1) 北米……………アメリカ
- (2) ヨーロッパ……………イギリス、ドイツ、イタリア
- (3) アジア……………タイ、シンガポール、韓国、中国

3. 資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は52,426百万円であり、その主なものは、親会社での長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

4. 会計方針の変更

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載の通り、当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合と比べ、当連結会計年度の営業費用は、日本が795百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

5. 追加情報

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載の通り、当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合と比べ、当連結会計年度の営業費用は、日本が830百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

当連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

| | 日本 (百万円) | 北米 (百万円) | ヨーロッパ (百万円) | アジア (百万円) | 計 (百万円) | 消去又は全社 (百万円) | 連結 (百万円) |
|-----------------------|-------------|-------------|----------------|--------------|------------|-----------------|-------------|
| I 売上高及び営業損益 | | | | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 206,435 | 21,755 | 19,737 | 20,931 | 268,857 | — | 268,857 |
| (2) セグメント間の内部売上高又は振替高 | 28,629 | 8,573 | 675 | 1,777 | 39,654 | (39,654) | — |
| 計 | 235,064 | 30,327 | 20,412 | 22,708 | 308,511 | (39,654) | 268,857 |
| 営業費用 | 235,055 | 27,807 | 20,462 | 22,622 | 305,946 | (40,025) | 265,922 |
| 営業利益(△営業損失) | 9 | 2,520 | △50 | 86 | 2,565 | 371 | 2,936 |
| II 資産 | 220,234 | 22,833 | 7,422 | 7,256 | 257,744 | 34,283 | 292,027 |

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっています。

2. 各区分に属する主な国又は地域

- (1) 北米……………アメリカ
- (2) ヨーロッパ……………イギリス、ドイツ、イタリア
- (3) アジア……………タイ、シンガポール、韓国、中国

3. 資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は54,801百万円であり、その主なものは、親会社での長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

4. 会計方針の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載の通り、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、営業利益が日本で3,449百万円減少しております。

5. 追加情報

(有形固定資産の耐用年数の変更)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載の通り、当社及び一部の国内連結子会社は、平成20年度の法人税法改正に伴う法定耐用年数の変更を契機として見直しを行い、一部の機械装置について、当連結会計年度より、耐用年数の変更を行っております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、営業利益が日本で1,764百万円減少しております。

c. 海外売上高

前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)

| | 北米 | ヨーロッパ | アジア | その他の地域 | 計 |
|---------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| I 海外売上高 (百万円) | 30,757 | 31,161 | 67,758 | 3,145 | 132,821 |
| II 連結売上高 (百万円) | | | | | 302,925 |
| III 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%) | 10.2 | 10.3 | 22.4 | 1.0 | 43.9 |

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっています。

2. 各区分に属する主な国又は地域

- (1) 北米……………アメリカ、カナダ、メキシコ
- (2) ヨーロッパ……………イギリス、ドイツ、イタリア
- (3) アジア……………中国、韓国、タイ、マレーシア、台湾
- (4) その他の地域……………ブラジル、オーストラリア

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

| | 北米 | ヨーロッパ | アジア | その他の地域 | 計 |
|---------------------------|--------|--------|--------|--------|---------|
| I 海外売上高 (百万円) | 27,646 | 29,331 | 60,018 | 2,469 | 119,463 |
| II 連結売上高 (百万円) | | | | | 268,857 |
| III 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%) | 10.3 | 10.9 | 22.3 | 0.9 | 44.4 |

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっています。

2. 各区分に属する主な国又は地域

- (1) 北米……………アメリカ、カナダ、メキシコ
- (2) ヨーロッパ……………イギリス、ドイツ、イタリア
- (3) アジア……………中国、韓国、タイ、マレーシア、台湾
- (4) その他の地域……………ブラジル、オーストラリア

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(関連当事者情報)

前連結会計年度(自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

(1) 役員及び個人主要株主等

| 属性 | 氏名 | 住所 | 資本金 (百万円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権等の 所有(被所有) 割合 | 関係内容 | | 取引の内容 | 取引金額 (百万円) | 科目 | 期末残高 (百万円) |
|----|------|----|--------------|------------------------|------------------------|------------|------------|----------------------|---------------|-----|---------------|
| | | | | | | 役員の 兼任等 | 事業上 の関係 | | | | |
| 役員 | 富永靖雄 | - | - | 横浜ゴム(株) 代表取締役 会長 | - | - | - | ゴム製品 等の販売 (注)2 | 15,915 | 売掛金 | 8,934 |

- (注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 富永靖雄氏が第三者(横浜ゴム(株):当社の議決権の7.1%を所有)の代表者として行った取引であり、当社と関連を有しない他の事業者と同様の条件によっております。取引条件的に劣ることはありません。

| 属性 | 氏名 | 住所 | 資本金 (百万円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権等の 所有(被所有) 割合 | 関係内容 | | 取引の内容 | 取引金額 (百万円) | 科目 | 期末残高 (百万円) |
|----|------|----|--------------|------------------------------|------------------------|------------|------------|--------------|---------------|------|---------------|
| | | | | | | 役員の 兼任等 | 事業上 の関係 | | | | |
| 役員 | 藤田 譲 | - | - | 朝日生命保 険(相) 代表取締役 社長 | - | - | - | 保険料支 払(注) | 14 | - | - |
| | | | | | | | | 保険金受 取(注) | 1 | - | - |
| | | | | | | | | 資金の借 入(注) | - | 借入金 | 2,500 |
| | | | | | | | | 利息の支 払(注) | 41 | - | - |
| | | | | | | | | 資金の貸 付(注) | - | 貸付金 | 500 |
| | | | | | | | | 利息の受 取(注) | 24 | 未収利息 | 17 |

- (注) 藤田 譲氏が第三者(朝日生命保険(相):当社の議決権の4.5%を所有)の代表者として行った取引であり、当社と関連を有しない他の事業者と同様の条件によっております。取引条件的に劣ることはありません。

(2) 子会社等

| 属性 | 会社等の 名称 | 住所 | 資本金 (百万円) | 事業の内容 | 議決権等の 所有(被所有) 割合 | 関係内容 | | 取引の内容 | 取引金額 (百万円) | 科目 | 期末残高 (百万円) |
|----------|----------------|------------|--------------|---------------------|------------------------|------------|----------------------------|------------------------------|---------------|------|---------------|
| | | | | | | 役員の兼 任等 | 事業上 の関係 | | | | |
| 関連 会社 | 岡山プタ ジエン(株) | 東京都 中央区 | 490 | プタジエン の製造・販 売 | (所有) 直接 50% | 役員 5名 | 原材料の 購入及び 用役等の 販売 | 原材料の 購入(有 償支給) (注)2 | 1,314 | 未収入金 | 6,634 |
| | | | | | | | | | | 買掛金 | 7,154 |

- (注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

原材料の購入については、総原価を勘案して、每期交渉の上、決定しております。

当連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

（追加情報）

当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」（企業会計基準第11号 平成18年10月17日）及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日）を適用しております。

なお、これによる開示対象範囲の変更はありません。

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金又は出資金 (百万円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権等の所有 (被所有) 割合 (%) | 関連当事者 との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (百万円) | 科目 | 期末残高 (百万円) |
|----|------------|-----|-------------------|--------------------------|----------------------------|---------------|-------|---------------|-----|---------------|
| 役員 | 藤田 譲 | - | - | 朝日生命保険(相) 代表取締役 会長 | - | 当社監査役 | 資金の借入 | 1,500 | 借入金 | 3,450 |
| | | | | | | | 資金の返済 | 550 | - | - |
| | | | | | | | 利息の支払 | 46 | - | - |

(注) 藤田 譲氏が第三者（朝日生命保険(相)：当社の議決権の4.5%を所有）の代表者として行った取引であり、当社と関連を有しない他の事業者と同様の条件によっています。取引条件的に劣ることはありません。

(1株当たり情報)

| 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | |
|--|---------|--|---------|
| 1株当たり純資産額 | 453.54円 | 1株当たり純資産額 | 405.89円 |
| 1株当たり当期純利益 | 38.24円 | 1株当たり当期純利益 | 10.50円 |
| 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 | 38.22円 | 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 | 10.49円 |

(注) 1. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|---|--|--|
| 1株当たり当期純利益金額 | | |
| 当期純利益(百万円) | 9,092 | 2,478 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | — | — |
| 普通株式に係る当期純利益(百万円) | 9,092 | 2,478 |
| 期中平均株式数(千株) | 237,764 | 236,062 |
| 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 | | |
| 当期純利益調整額(百万円) | — | — |
| 普通株式増加数(千株) | 121 | 198 |
| (内、ストックオプション)(千株) | (121) | (198) |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要 | — | — |

(重要な後発事象)

| 前連結会計年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|--|--|
| ————— | ————— |

5. 個別財務諸表
 (1) 貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (平成20年3月31日) | 当事業年度 (平成21年3月31日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 58 | 848 |
| 受取手形 | 255 | 200 |
| 売掛金 | ※4 51,174 | ※4 32,560 |
| 商品 | 4,089 | — |
| 製品 | 21,652 | — |
| 商品及び製品 | — | 28,261 |
| 仕掛品 | 2,937 | 2,837 |
| 原材料 | 3,816 | — |
| 貯蔵品 | 1,376 | — |
| 原材料及び貯蔵品 | — | 6,023 |
| 前払費用 | 475 | 525 |
| 繰延税金資産 | 2,023 | 2,981 |
| 未収入金 | ※4 29,163 | ※4 14,364 |
| 未収還付法人税等 | — | 2,727 |
| その他 | 996 | 108 |
| 貸倒引当金 | — | △1 |
| 流動資産合計 | 118,015 | 91,433 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 36,994 | 38,625 |
| 減価償却累計額 | △13,916 | △15,145 |
| 建物(純額) | 23,078 | 23,480 |
| 構築物 | 13,496 | 14,273 |
| 減価償却累計額 | △8,593 | △9,298 |
| 構築物(純額) | 4,903 | 4,975 |
| 機械及び装置 | 167,222 | 175,017 |
| 減価償却累計額 | △125,356 | △140,217 |
| 機械及び装置(純額) | 41,866 | 34,800 |
| 車両運搬具 | 293 | 301 |
| 減価償却累計額 | △231 | △259 |
| 車両運搬具(純額) | 62 | 42 |
| 工具、器具及び備品 | 12,307 | 13,938 |
| 減価償却累計額 | △9,332 | △11,324 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 2,975 | 2,614 |
| 土地 | 10,281 | 10,805 |
| リース資産 | — | 101 |
| 減価償却累計額 | — | △18 |
| リース資産(純額) | — | 83 |
| 建設仮勘定 | 13,992 | 28,568 |
| 有形固定資産合計 | ※7 97,157 | ※7 105,366 |

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (平成20年3月31日) | 当事業年度 (平成21年3月31日) |
|-------------|-----------------------|-----------------------|
| 無形固定資産 | | |
| 特許権 | 112 | 92 |
| 借地権 | 5 | 5 |
| ソフトウェア | 2,762 | 3,091 |
| その他 | 25 | 25 |
| 無形固定資産合計 | 2,903 | 3,213 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | ※1 32,543 | ※1 23,260 |
| 関係会社株式 | 15,117 | 14,715 |
| 関係会社出資金 | 795 | 795 |
| 長期貸付金 | 511 | 1,008 |
| 破産更生債権等 | 34 | 53 |
| 長期前払費用 | 1,250 | 828 |
| 繰延税金資産 | 311 | 5,632 |
| その他 | 789 | 2,684 |
| 貸倒引当金 | △100 | △125 |
| 投資その他の資産合計 | 51,249 | 48,850 |
| 固定資産合計 | 151,309 | 157,429 |
| 資産合計 | 269,324 | 248,862 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | ※4 63,951 | ※4 25,059 |
| 短期借入金 | 12,726 | ※4 30,836 |
| コマーシャル・ペーパー | 19,984 | 29,988 |
| リース債務 | — | 28 |
| 未払金 | ※4 15,612 | ※4 7,575 |
| 未払費用 | 1,770 | 2,663 |
| 未払法人税等 | 2,217 | 101 |
| 前受金 | 17 | 15 |
| 預り金 | 431 | 601 |
| 賞与引当金 | 1,000 | 804 |
| 修繕引当金 | 1,048 | 1,193 |
| その他 | — | 604 |
| 流動負債合計 | 118,756 | 99,467 |

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (平成20年3月31日) | 当事業年度 (平成21年3月31日) |
|--------------|-----------------------|-----------------------|
| 固定負債 | | |
| 社債 | 20,000 | 20,000 |
| 長期借入金 | 28,000 | 32,250 |
| リース債務 | — | 60 |
| 長期未払金 | 267 | 267 |
| 修繕引当金 | 493 | 487 |
| 退職給付引当金 | 9,222 | 8,379 |
| 役員退職慰労引当金 | 32 | 46 |
| 環境対策引当金 | 517 | 517 |
| 固定負債合計 | 58,532 | 62,006 |
| 負債合計 | 177,288 | 161,473 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 24,211 | 24,211 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 18,336 | 18,336 |
| その他資本剰余金 | 6 | 2 |
| 資本剰余金合計 | 18,341 | 18,338 |
| 利益剰余金 | | |
| 利益準備金 | 3,027 | 3,027 |
| その他利益剰余金 | | |
| 圧縮記帳積立金 | 995 | 916 |
| 別途積立金 | 9,081 | 9,081 |
| 繰越利益剰余金 | 36,828 | 37,015 |
| 利益剰余金合計 | 49,930 | 50,039 |
| 自己株式 | △5,433 | △5,430 |
| 株主資本合計 | 87,050 | 87,159 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 4,834 | 29 |
| 評価・換算差額等合計 | 4,834 | 29 |
| 新株予約権 | 151 | 201 |
| 純資産合計 | 92,036 | 87,389 |
| 負債純資産合計 | 269,324 | 248,862 |

(2) 損益計算書

(単位：百万円)

| | 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|-----------------------|-------------------------------|---------|-------------------------------|---------|
| | (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | | (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | |
| 売上高 | ※1 | 186,739 | ※1 | 170,457 |
| 売上原価 | | | | |
| 売上原価合計 | | 138,042 | ※2 | 135,668 |
| 売上総利益 | | 48,697 | | 34,789 |
| 販売費及び一般管理費 | ※3,4 | 31,734 | ※3,4 | 30,662 |
| 営業利益 | | 16,964 | | 4,127 |
| 営業外収益 | | | | |
| 受取利息 | | 27 | | 80 |
| 受取配当金 | ※1 | 2,339 | ※1 | 2,213 |
| 助成金 | | 519 | | 2,538 |
| 雑益 | | 766 | | 827 |
| 営業外収益合計 | | 3,650 | | 5,658 |
| 営業外費用 | | | | |
| 支払利息 | | 485 | | 840 |
| 社債利息 | | 292 | | 305 |
| 為替差損 | | 1,748 | | 1,378 |
| たな卸資産処分損 | | 347 | | — |
| 雑損失 | | 270 | | 250 |
| 営業外費用合計 | | 3,141 | | 2,774 |
| 経常利益 | | 17,472 | | 7,011 |
| 特別利益 | | | | |
| 固定資産売却益 | | — | ※5 | 46 |
| 投資有価証券売却益 | | 0 | | 2 |
| 関係会社株式売却益 | | — | | 24 |
| 貸倒引当金戻入額 | | 6 | | — |
| 関係会社清算益 | | 5 | | — |
| 特別利益合計 | | 11 | | 72 |
| 特別損失 | | | | |
| 固定資産処分損 | ※6 | 943 | ※6 | 661 |
| 減損損失 | | 256 | ※8 | 1,494 |
| 関係会社株式評価損 | | 74 | | 4,790 |
| 訴訟関連費用 | ※7 | 643 | | — |
| その他特別損失 | | 95 | | 240 |
| 特別損失合計 | | 2,010 | | 7,186 |
| 税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△) | | 15,473 | | △103 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 5,139 | | 32 |
| 過年度法人税等 | | — | | 115 |
| 法人税等調整額 | | △111 | | △3,191 |
| 法人税等合計 | | 5,028 | | △3,044 |
| 当期純利益 | | 10,445 | | 2,942 |

(3) 株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

| | 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|------------|-------------------------------|--------|-------------------------------|--------|
| | (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | | (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | |
| 株主資本 | | | | |
| 資本金 | | | | |
| 前期末残高 | | 24,211 | | 24,211 |
| 当期変動額 | | | | |
| 当期変動額合計 | | — | | — |
| 当期末残高 | | 24,211 | | 24,211 |
| 資本剰余金 | | | | |
| 資本準備金 | | | | |
| 前期末残高 | | 18,336 | | 18,336 |
| 当期変動額 | | | | |
| 当期変動額合計 | | — | | — |
| 当期末残高 | | 18,336 | | 18,336 |
| その他資本剰余金 | | | | |
| 前期末残高 | | 0 | | 6 |
| 当期変動額 | | | | |
| 自己株式の処分 | | 6 | | △3 |
| 当期変動額合計 | | 6 | | △3 |
| 当期末残高 | | 6 | | 2 |
| 資本剰余金合計 | | | | |
| 前期末残高 | | 18,336 | | 18,341 |
| 当期変動額 | | | | |
| 自己株式の処分 | | 6 | | △3 |
| 当期変動額合計 | | 6 | | △3 |
| 当期末残高 | | 18,341 | | 18,338 |
| 利益剰余金 | | | | |
| 利益準備金 | | | | |
| 前期末残高 | | 3,027 | | 3,027 |
| 当期変動額 | | | | |
| 当期変動額合計 | | — | | — |
| 当期末残高 | | 3,027 | | 3,027 |
| その他利益剰余金 | | | | |
| 圧縮記帳積立金 | | | | |
| 前期末残高 | | 1,108 | | 995 |
| 当期変動額 | | | | |
| 圧縮記帳積立金の積立 | | — | | 21 |
| 圧縮記帳積立金の取崩 | | △113 | | △100 |
| 当期変動額合計 | | △113 | | △78 |
| 当期末残高 | | 995 | | 916 |
| 特別償却積立金 | | | | |
| 前期末残高 | | 1 | | — |
| 当期変動額 | | | | |
| 特別償却積立金の取崩 | | △1 | | — |
| 当期変動額合計 | | △1 | | — |
| 当期末残高 | | — | | — |

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|------------|--|--|
| 別途積立金 | | |
| 前期末残高 | 9,081 | 9,081 |
| 当期変動額 | | |
| 当期変動額合計 | — | — |
| 当期末残高 | 9,081 | 9,081 |
| 繰越利益剰余金 | | |
| 前期末残高 | 29,125 | 36,828 |
| 当期変動額 | | |
| 圧縮記帳積立金の積立 | — | △21 |
| 圧縮記帳積立金の取崩 | 113 | 100 |
| 特別償却積立金の取崩 | 1 | — |
| 剰余金の配当 | △2,857 | △2,833 |
| 当期純利益 | 10,445 | 2,942 |
| 当期変動額合計 | 7,703 | 187 |
| 当期末残高 | 36,828 | 37,015 |
| 利益剰余金合計 | | |
| 前期末残高 | 42,342 | 49,930 |
| 当期変動額 | | |
| 圧縮記帳積立金の積立 | — | — |
| 圧縮記帳積立金の取崩 | — | — |
| 特別償却積立金の取崩 | — | — |
| 剰余金の配当 | △2,857 | △2,833 |
| 当期純利益 | 10,445 | 2,942 |
| 当期変動額合計 | 7,588 | 109 |
| 当期末残高 | 49,930 | 50,039 |
| 自己株式 | | |
| 前期末残高 | △4,445 | △5,433 |
| 当期変動額 | | |
| 自己株式の処分 | 42 | 6 |
| 自己株式の取得 | △1,031 | △3 |
| 当期変動額合計 | △989 | 4 |
| 当期末残高 | △5,433 | △5,430 |
| 株主資本合計 | | |
| 前期末残高 | 80,445 | 87,050 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △2,857 | △2,833 |
| 当期純利益 | 10,445 | 2,942 |
| 自己株式の処分 | 48 | 3 |
| 自己株式の取得 | △1,031 | △3 |
| 当期変動額合計 | 6,605 | 109 |
| 当期末残高 | 87,050 | 87,159 |

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|---------------------|--|--|
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 前期末残高 | 13,449 | 4,834 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | △8,614 | △4,805 |
| 当期変動額合計 | △8,614 | △4,805 |
| 当期末残高 | 4,834 | 29 |
| 評価・換算差額等合計 | | |
| 前期末残高 | 13,449 | 4,834 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | △8,614 | △4,805 |
| 当期変動額合計 | △8,614 | △4,805 |
| 当期末残高 | 4,834 | 29 |
| 新株予約権 | | |
| 前期末残高 | 101 | 151 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 50 | 50 |
| 当期変動額合計 | 50 | 50 |
| 当期末残高 | 151 | 201 |
| 純資産合計 | | |
| 前期末残高 | 93,995 | 92,036 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | △2,857 | △2,833 |
| 当期純利益 | 10,445 | 2,942 |
| 自己株式の処分 | 48 | 3 |
| 自己株式の取得 | △1,031 | △3 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | △8,565 | △4,755 |
| 当期変動額合計 | △1,959 | △4,646 |
| 当期末残高 | 92,036 | 87,389 |

継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

重要な会計方針

| | 前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|---------------------|--|--|
| 1. 有価証券の評価基準及び評価方法 | (1) 子会社株式及び関連会社株式 …移動平均法による原価法 (2) その他有価証券 時価のあるもの…決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 時価のないもの…移動平均法による原価法 | (1) 子会社株式及び関連会社株式 …同左 (2) その他有価証券 時価のあるもの…同左 時価のないもの…同左 |
| 2. デリバティブの評価方法 | 時価法 | 同左 |
| 3. たな卸資産の評価基準及び評価方法 | 商品・製品……………総平均法による原価法 仕掛品…………… 〃 主要原材料…………… 〃 その他の原材料・貯蔵品 ……………移動平均法による原価法 | 商品・製品・仕掛品・主要原材料 ……………総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定) その他の原材料・貯蔵品 ……………移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定) <会計方針の変更> 当社は、通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、当事業年度より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分)が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しております。 また、従来営業外費用に計上していた「たな卸資産処分損」(当事業年度824百万円)につきましては、当事業年度より売上原価に計上しております。 これにより、営業利益は1,687百万円、経常利益は863百万円減少し、税引前当期純損失は863百万円増加しております。 |

| | 前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|-----------------|---|---|
| 4. 固定資産の減価償却の方法 | <p>有形固定資産…定率法（ただし、建物は定額法）によっております。</p> <p><会計方針の変更></p> <p>法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。</p> <p>これにより、営業利益は550百万円減少し、経常利益及び税引前当期純利益は834百万円減少しております。</p> <p><追加情報></p> <p>法人税法の改正に伴い、平成19年3月31日以前に取得した資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した事業年度の翌事業年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。</p> <p>これにより、営業利益は790百万円減少し、経常利益及び税引前当期純利益は818百万円減少しております。</p> <p>無形固定資産…定額法によっております。</p> <p>なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。</p> | <p>有形固定資産（リース資産を除く）…定率法（ただし、建物は定額法）によっております。</p> <p><追加情報></p> <p>当社は平成20年度の法人税法改正に伴う法定耐用年数の変更を契機として見直しを行い、一部の機械装置について、当事業年度より、耐用年数の変更を行っております。</p> <p>これにより、営業利益は665百万円、経常利益は1,861百万円減少し、税引前当期純損失は1,861百万円増加しております。</p> <p>無形固定資産…同左</p> |

| | 前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|-------------------------|---|---|
| | | <p>リース資産</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産…リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p><会計方針の変更></p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>これによる当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。</p> |
| 5. 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準 | 外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。 | 同左 |
| 6. 引当金の計上基準 | <p>(1) 貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額を計上しております。</p> | <p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> |

| | 前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|----------------------------|--|--|
| | <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。 過去勤務債務は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により按分した額を費用処理しております。 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（13年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 監査役に対する退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当期末要支給額を引当計上しております。</p> <p>(5) 修繕引当金 製造設備の定期修繕に要する支出に備えるため、発生費用見込額を期間に応じて配分し、当期に対応する額を計上しております。</p> <p>(6) 環境対策引当金 将来の環境対策に要する支出（ポリ塩化ビフェニル廃棄物の処理費用等）のうち、当期末において発生していると認められる金額を計上しております。</p> | <p>(3) 退職給付引当金 同左</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 同左</p> <p>(5) 修繕引当金 同左</p> <p>(6) 環境対策引当金 同左</p> |
| 7. リース取引の処理方法 | リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンスリース取引については、通常の賃貸借取引に係わる方法に準じた会計処理によっております。 | ————— |
| 8. ヘッジ会計の方法 | <p>(1)ヘッジ会計の方法 金利スワップについては特例処理によっております。</p> <p>(2)ヘッジ手段とヘッジ対象 ・ヘッジ手段：金利スワップ取引 ・ヘッジ対象：社債、借入金</p> <p>(3)ヘッジ方針 当社は、原則として金利変動リスクを回避軽減する目的でデリバティブ取引を利用しております。また、取引の契約先は信用度の高い金融機関に限定しております。</p> <p>(4)ヘッジ有効性評価の方法 特例処理の要件に該当するため、有効性の評価を省略しております。</p> | <p>(1)ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>(2)ヘッジ手段とヘッジ対象 同左</p> <p>(3)ヘッジ方針 同左</p> <p>(4)ヘッジ有効性評価の方法 同左</p> |
| 9. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 | (1)消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。 | (1)消費税等の会計処理 同左 |

表示方法の変更
(損益計算書関係)

| 前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|--|--|
| (1) 「訴訟関連費用」については、特別損失の100分の10を超えたため、区分掲記いたしました。なお、前期の訴訟関連費用は特別損失の「その他特別損失」に含めて計上しており、金額は60百万円であります。 | (1) 「訴訟関連費用」については、特別損失の100分の10以下となったため、特別損失の「その他特別損失」に含めて計上しております。金額は20百万円であります。 |

注記事項
(貸借対照表関係)

| 前事業年度 (平成20年3月31日) | 当事業年度 (平成21年3月31日) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--------------------------|----------|---------------|-----|-----------|----|-------------------|-----|------------------|----|---------------|----|----------|-------|-------------|-----|--------|-------|-----------|----|---------------|-----|---------|-------|---|--------|---|--------------------------|----------|---------------|-----|-------------------|-----|------------------|----|---------------|----|----------|-------|-------------|-----|--------|-------|-----------|-----|-------------|----|-------|----|---|--------|
| <p>※1. 投資有価証券のうち、3,107百万円は関係会社の長期借入金2,500百万円及び水島エコワークス株式会社の銀行取引に係る債務9,348百万円の担保に供しております。</p> <p>2. 偶発債務 保証債務 借入金等に対して下記の保証を行っております。 (関係会社)</p> <table> <tr> <td>ゼオン・ケミカルズ・リミテッド・パートナーシップ</td> <td>5,812百万円</td> </tr> <tr> <td>ゼオンケミカルズ米沢(株)</td> <td>429</td> </tr> <tr> <td>ゼオンノース(株)</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>ゼオン・アドバンスド・ポリミクス社</td> <td>297</td> </tr> <tr> <td>ゼオン・ケミカルズ・ヨーロッパ社</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>瑞翁化工(広州) 有限公司</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>ゼオン化成(株)</td> <td>2,115</td> </tr> <tr> <td>ゼオンメディカル(株)</td> <td>972</td> </tr> <tr> <td>(株)TFC</td> <td>2,200</td> </tr> <tr> <td>RIMTEC(株)</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>ゼオンエフアンドビー(株)</td> <td>305</td> </tr> <tr> <td>(株)オブテス</td> <td>4,017</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>16,399</td> </tr> </table> | ゼオン・ケミカルズ・リミテッド・パートナーシップ | 5,812百万円 | ゼオンケミカルズ米沢(株) | 429 | ゼオンノース(株) | 76 | ゼオン・アドバンスド・ポリミクス社 | 297 | ゼオン・ケミカルズ・ヨーロッパ社 | 81 | 瑞翁化工(広州) 有限公司 | 44 | ゼオン化成(株) | 2,115 | ゼオンメディカル(株) | 972 | (株)TFC | 2,200 | RIMTEC(株) | 50 | ゼオンエフアンドビー(株) | 305 | (株)オブテス | 4,017 | 計 | 16,399 | <p>※1. 投資有価証券のうち、46百万円は水島エコワークス株式会社の銀行取引に係る債務10,313百万円の担保に供しております。</p> <p>2. 偶発債務 保証債務 借入金等に対して下記の保証を行っております。 (関係会社)</p> <table> <tr> <td>ゼオン・ケミカルズ・リミテッド・パートナーシップ</td> <td>4,815百万円</td> </tr> <tr> <td>ゼオンケミカルズ米沢(株)</td> <td>409</td> </tr> <tr> <td>ゼオン・アドバンスド・ポリミクス社</td> <td>246</td> </tr> <tr> <td>ゼオン・ケミカルズ・ヨーロッパ社</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>瑞翁化工(広州) 有限公司</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>ゼオン化成(株)</td> <td>1,973</td> </tr> <tr> <td>ゼオンメディカル(株)</td> <td>860</td> </tr> <tr> <td>(株)TFC</td> <td>1,980</td> </tr> <tr> <td>RIMTEC(株)</td> <td>192</td> </tr> <tr> <td>ゼオンポリミクス(株)</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>その他6社</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10,673</td> </tr> </table> | ゼオン・ケミカルズ・リミテッド・パートナーシップ | 4,815百万円 | ゼオンケミカルズ米沢(株) | 409 | ゼオン・アドバンスド・ポリミクス社 | 246 | ゼオン・ケミカルズ・ヨーロッパ社 | 24 | 瑞翁化工(広州) 有限公司 | 98 | ゼオン化成(株) | 1,973 | ゼオンメディカル(株) | 860 | (株)TFC | 1,980 | RIMTEC(株) | 192 | ゼオンポリミクス(株) | 29 | その他6社 | 48 | 計 | 10,673 |
| ゼオン・ケミカルズ・リミテッド・パートナーシップ | 5,812百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオンケミカルズ米沢(株) | 429 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオンノース(株) | 76 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオン・アドバンスド・ポリミクス社 | 297 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオン・ケミカルズ・ヨーロッパ社 | 81 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 瑞翁化工(広州) 有限公司 | 44 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオン化成(株) | 2,115 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオンメディカル(株) | 972 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (株)TFC | 2,200 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| RIMTEC(株) | 50 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオンエフアンドビー(株) | 305 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (株)オブテス | 4,017 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 16,399 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオン・ケミカルズ・リミテッド・パートナーシップ | 4,815百万円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオンケミカルズ米沢(株) | 409 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオン・アドバンスド・ポリミクス社 | 246 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオン・ケミカルズ・ヨーロッパ社 | 24 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 瑞翁化工(広州) 有限公司 | 98 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオン化成(株) | 1,973 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオンメディカル(株) | 860 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (株)TFC | 1,980 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| RIMTEC(株) | 192 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ゼオンポリミクス(株) | 29 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他6社 | 48 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 10,673 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 前事業年度 (平成20年3月31日) | 当事業年度 (平成21年3月31日) |
|---|---|
| (関係会社以外) 従業員(住宅資金他) 601百万円 | (関係会社以外) 従業員(住宅資金他) 509百万円 |
| 係争事件に係る賠償義務 当社および当社の欧州子会社(ゼオン・ヨーロッパ社およびゼオン・ケミカルズ・ヨーロッパ社)は、平成19年5月に欧州委員会より、欧州のNBR(アクリロニトリル・ブタジエン・ラバー)取引における競争制限取引の疑いに関する異議告知書を受領し、同年6月、その内容を検討の上答弁書を提出しました。平成20年1月に欧州委員会は、当社グループに対して、平成12年から平成14年の期間の違反行為について5.36百万ユーロ(約8.4億円)の制裁金を課す決定を下しました。これに対し当社グループは、提訴した場合の裁判の長期化による時間的・費用的負担が多くなること等を総合的に考慮し、提訴せずに制裁金の支払いに応じることとしました。制裁金は平成20年3月期の財務諸表に計上し、本年4月に支払いを済ませました。 | |
| 3. 受取手形割引高は、3,894百万円であります。 | 3. _____ |
| ※4. 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりです。 | ※4. 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりです。 |
| 売掛金 19,774百万円 未収入金 8,455 買掛金 10,938 未払金 9,658 | 売掛金 12,455百万円 未収入金 2,691 買掛金 3,832 未払金 4,436 短期借入金 3,000 |
| 5. 貸出コミットメント 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく当期末の借入未実行残高は次のとおりであります。 | 5. 貸出コミットメント 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく当期末の借入未実行残高は次のとおりであります。 |
| 貸出コミットメントの総額 15,000百万円 借入実行残高 — 差引額 15,000 | 貸出コミットメントの総額 15,000百万円 借入実行残高 — 差引額 15,000 |
| 6. パーティシペーション契約の対象とした売掛金および未収入金については、「ローン・パーティシペーションの会計処理及び表示」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第3号)に準じて、売却したものとして会計処理しております。なお、売却処理した売掛金の期末残高の総額は、592百万円であり、未収入金の期末残高の総額は、1,008百万円であります。 | 6. _____ |
| ※7. 圧縮記帳 有形固定資産の取得価額から国庫補助金による圧縮記帳累計額850百万円を控除しております。 | ※7. 圧縮記帳 有形固定資産の取得価額から国庫補助金による圧縮記帳累計額1,600百万円を控除しております。 |

| 前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-------|---------------|----|---------------|------------|---------------|-------|-------|-------------|----|-------|-----|
| ※8. | ※8. 減損損失 当事業年度において、当社は以下の資産について減損損失を計上しました。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">場所</th> <th style="text-align: center;">用途</th> <th style="text-align: center;">種類</th> <th style="text-align: center;">減損損失 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">富山県 高岡市</td> <td style="text-align: center;">高機能部材 生産設備</td> <td style="text-align: center;">機械装置等</td> <td style="text-align: center;">1,248</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">富山県 氷見市他</td> <td style="text-align: center;">遊休</td> <td style="text-align: center;">機械装置等</td> <td style="text-align: center;">246</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 10px;">当社は、事業用資産に関しては、継続的に損益の把握を実施している管理会計上の区分を基礎としてグルーピングを行っております。また、事業の用に供していない遊休資産等については個別資産別に減損損失認識の判定を行っております。</p> <p>事業用資産については、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスの事業について減損の兆候を個別に検討のうえ、回収可能価額が帳簿価額に満たない事業について回収可能価額まで帳簿価額を減額いたしました。なお回収可能価額の算定は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため割引計算は行っておりません。</p> <p>また遊休状態にあると認められ今後の利用見込みがない資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。回収可能価額は正味売却価額により測定しており、他への転用または売却が困難であるため、備忘価額で評価しております。</p> | 場所 | 用途 | 種類 | 減損損失 (百万円) | 富山県 高岡市 | 高機能部材 生産設備 | 機械装置等 | 1,248 | 富山県 氷見市他 | 遊休 | 機械装置等 | 246 |
| 場所 | 用途 | 種類 | 減損損失 (百万円) | | | | | | | | | | |
| 富山県 高岡市 | 高機能部材 生産設備 | 機械装置等 | 1,248 | | | | | | | | | | |
| 富山県 氷見市他 | 遊休 | 機械装置等 | 246 | | | | | | | | | | |

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 前事業年度末株式数 (千株) | 当事業年度増加株式数 (千株) | 当事業年度減少株式数 (千株) | 当事業年度末株式数 (千株) |
|------|-------------------|--------------------|--------------------|-------------------|
| 普通株式 | 4,048 | 2,004 | 38 | 6,014 |
| 合計 | 4,048 | 2,004 | 38 | 6,014 |

(注) 自己株式の数の増加は公開買付けによる取得および単元未満株式の買取りによる増加であり、減少はストック・オプションの行使および単元未満株主の売渡請求によるものであります。

当事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 前事業年度末株式数 (千株) | 当事業年度増加株式数 (千株) | 当事業年度減少株式数 (千株) | 当事業年度末株式数 (千株) |
|------|-------------------|--------------------|--------------------|-------------------|
| 普通株式 | 6,014 | 7 | 6 | 6,014 |
| 合計 | 6,014 | 7 | 6 | 6,014 |

(注) 自己株式の数の増加は単元未満株式の買取りによる増加であり、減少は単元未満株主の売渡請求によるものであります。

(有価証券関係)

前事業年度(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)及び当事業年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)における子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(税効果会計関係)

| 前事業年度 (平成20年3月31日現在) | 当事業年度 (平成21年3月31日現在) |
|---|---|
| 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (百万円) | 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (百万円) |
| 繰延税金資産 | 繰延税金資産 |
| たな卸資産 | たな卸資産 |
| 投資有価証券 | 減損損失 |
| 子会社株式 | 投資有価証券 |
| 未払事業税 | 子会社株式 |
| 賞与引当金 | 賞与引当金 |
| 修繕引当金 | 修繕引当金 |
| 退職給付引当金 | 退職給付引当金 |
| 未払金 | 未払金 |
| 環境対策引当金 | 環境対策引当金 |
| その他 | 繰越欠損金 |
| 繰延税金資産小計 | その他 |
| 評価性引当額 | 繰延税金資産小計 |
| 繰延税金資産合計 | 評価性引当額 |
| 繰延税金負債 | 繰延税金資産合計 |
| 固定資産圧縮積立金 | 繰延税金負債 |
| その他有価証券評価差額金 | 未収還付事業税 |
| その他 | 固定資産圧縮積立金 |
| 繰延税金負債合計 | その他有価証券評価差額金 |
| 繰延税金資産の純額 | その他 |
| | 繰延税金負債合計 |
| | 繰延税金資産の純額 |
| | |
| 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳 | 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳 |
| 法定実効税率 (調整) | 税引前当期純損失が計上されているため、記載しておりません。 |
| 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 | |
| 税額控除 | |
| その他 | |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | |

(1株当たり情報)

| 前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | | 当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | |
|--|---------|--|---------|
| 1株当たり純資産額 | 389.24円 | 1株当たり純資産額 | 369.35円 |
| 1株当たり当期純利益金額 | 43.93円 | 1株当たり当期純利益金額 | 12.46円 |
| 潜在株式調整後 | | 潜在株式調整後 | |
| 1株当たり当期純利益金額 | 43.91円 | 1株当たり当期純利益金額 | 12.45円 |

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|---|--|--|
| 1株当たり当期純利益金額 | | |
| 当期純利益(百万円) | 10,445 | 2,942 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | — | — |
| 普通株式に係る当期純利益(百万円) | 10,445 | 2,942 |
| 期中平均株式数(千株) | 237,764 | 236,062 |
| 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 | | |
| 当期純利益調整額(百万円) | — | — |
| 普通株式増加数(千株) | 121 | 198 |
| (うちストックオプション)(千株) | (121) | (198) |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要 | — | — |

(重要な後発事象)

| 前事業年度 (自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日) | 当事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) |
|--|--|
| ————— | ————— |

6. その他

役員の異動

(1) 代表者の異動 (平成21年6月26日付)

① 退任予定代表取締役

代表取締役専務 夏梅 伊男 (退任後 当社顧問就任予定)

*上記の者は執行役員も退任いたします。

(2) その他役員の異動 (平成21年6月26日付)

① 新任取締役候補

取締役 大島 正義 (現 当社執行役員)

取締役 長谷川 純 (現 当社執行役員)

取締役 平川 宏之 (現 当社執行役員)

② 退任予定取締役

常務取締役 宮本 正文 (退任後 当社顧問就任予定)

取締役 岩田 峰郎 (退任後 当社常勤監査役就任予定)

*上記の者は執行役員も退任いたします。

③ 新任監査役候補

常勤監査役 岩田 峰郎 (現 当社取締役)

④ 退任予定監査役

常勤監査役 平松 暎章 (退任後 当社顧問就任予定)

(3) 執行役員の異動 (平成21年6月26日付)

当社は、平成21年6月26日付にて、業務執行の責任者である執行役員に階層を設け、その責任と権限をより明確なものとし、以下の体制を予定しております。

| | |
|--------|------------|
| 常務執行役員 | 岡田 誠一 (※) |
| 常務執行役員 | 南 忠幸 (※) |
| 常務執行役員 | 荒川 公平 (※) |
| 常務執行役員 | 伏見 好正 (※) |
| 常務執行役員 | 井上 幹雄 (昇任) |
| 執行役員 | 武上 博 (※) |
| 執行役員 | 田中 公章 (※) |
| 執行役員 | 柿沼 秀一 (※) |
| 執行役員 | 朝比奈 宏 |
| 執行役員 | 大島 正義 (※) |
| 執行役員 | 桜井 賢典 |
| 執行役員 | 梅澤 佳男 |
| 執行役員 | 今井 廣史 |
| 執行役員 | 三平 能之 |
| 執行役員 | 長谷川 純 (※) |
| 執行役員 | 平川 宏之 (※) |
| 執行役員 | 西嶋 徹 (新任) |
| 執行役員 | 伊藤 敬 (新任) |
| 執行役員 | 山本 俊一 (新任) |

(※) を付した者は、取締役を兼務いたします。